

Arcserve Unified Data Protection 11.x

Agent for Windows 環境構築ガイド

インストール～ベアメタル復旧編

はじめに	3
1. インストール	5
1.1 インストール	6
1.2 バージョンの確認	12
1.3 ライセンス キーの登録	13
1.4 修正ファイルの適用	13
1.5 ARCSERVE UDP 11.0 へのバージョン アップグレード	14
2. バックアップ運用の開始	16
2.1 バックアップ設定	16
3. バックアップ スケジュールの設定例	28
3.1 バックアップ スケジュールの設定例	28
4. バックアップ 設定のエクスポートとインポート	30
4.1 バックアップ 設定のエクスポート	30
4.2 バックアップ 設定のインポート	32
5. ベアメタル復旧	34
5.1 復旧用メディアの作成	35
5.2 ベアメタル復旧の実行	46
6. 製品情報と無償トレーニング情報	55
6.1 製品情報および FAQ はこちら	55
6.2 トレーニング情報	55



改定履歴

2026 年 8 月 Rev 1.0 リリース



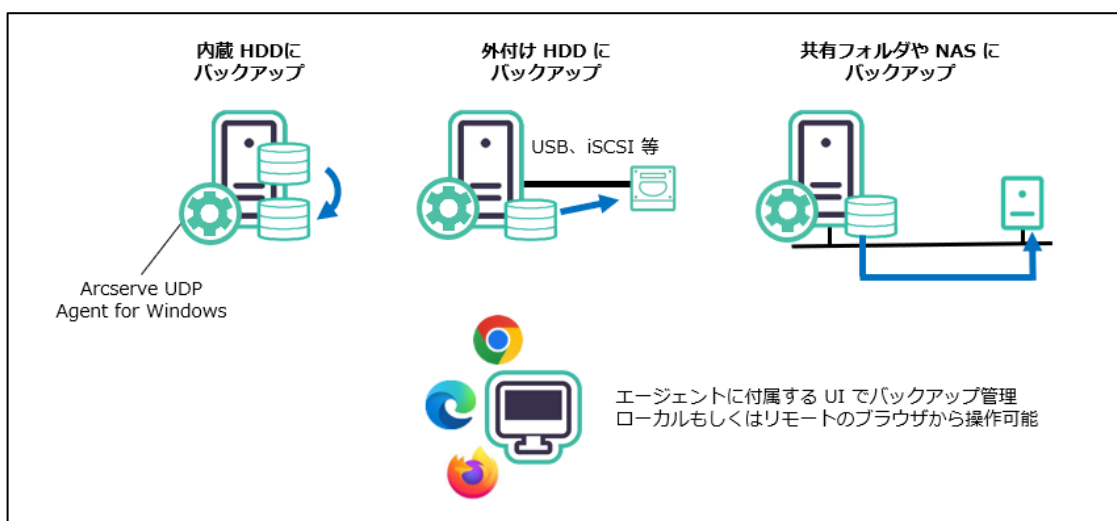
はじめに

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) の Agent for Windows は、小中規模のコンピューティング環境におけるデータ保護ニーズに焦点を合わせた、非常に「簡単」かつ「手頃」なディスクベースのシステム保護ソリューションです。導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。

本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に Agent for Windows の環境構築を行っていただけるよう、ステップバイステップでインストールからベアメタル復旧までの手順を説明しています。

Agent for Windows は保護対象のマシンに直接インストール可能です。バックアップ先としては、内蔵・外付けのディスクの他、リモートの共有フォルダや NAS を使用できます。共有フォルダ/NAS を使用する構成では、保護対象サーバから見て Windows の共有フォルダとしてアクセスできるのであれば、デバイスの形式は問いません。内蔵ディスクが 1 本しかない構成や、サーバ内にバックアップのための容量を確保できない構成では、NAS などのリモートの共有フォルダをバックアップ先に使用する運用が効果的です。

管理 GUI は WEB ベースなので、ブラウザが使用できる環境ならば、保護したいサーバにアクセスするだけでバックアップ状況を確認することができます。



保護対象の台数が多い環境では「Arcserve UDP コンソール」からすべてのサーバを一元管理する運用もできます。バックアップ対象ノードにエージェント等の各種コンポーネントをリモートでインストールしたり、バックアップの設定（プラン）を一斉に配信することもできます。

Arcserve UDP コンソール利用時は、バックアップ先として「復旧ポイントサーバ」も利用できます。これにより、バックアップデータの重複排除や、遠隔地への転送機能が提供されます。また、負荷のかかるマージやカタログ作成処理を Agent for Windows に代わって復旧ポイントサーバ側で実行することができるため、保護対象サーバやネットワークへの負荷を低減できます。

Arcserve UDP コンソールや復旧ポイントサーバの導入については、[Arcserve カタログセンター](#) - 「UDP for Windows - 技術資料 :」 - 「[環境構築ガイド コンソール + 復旧ポイントサーバ \(フル コンポーネント\) インストール編](#)」をご参照ください。



1. インストール

ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールに必要なディスク要件は環境により異なるため、コンポーネントごとの容量などの詳細は下記動作要件をご参照ください。

Arcserve UDP 11.0 動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-11-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

旧バージョンからのアップグレード方法については下記をご確認ください。

[Arcserve UDP 11.0 のインストール・アップグレードについて](#)

[Arcserve Unified Data Protection 11 ダウンロード情報一覧](#)

注意：インストールに伴うサーバ再起動について

OS 構成やアップデート状況により、インストール後に再起動を促される場合があります。



ポップアップが表示されなかった場合でも、[インストールの開始時]に再起動の確認ダイアログがポップアップ表示されていた場合は、Arcserve UDP のインストール/アップグレード完了後に手動でシステムを再起動することを推奨します。



1.1 インストール

本節では Arcserve UDP 11.0 の新規インストール手順を説明します。

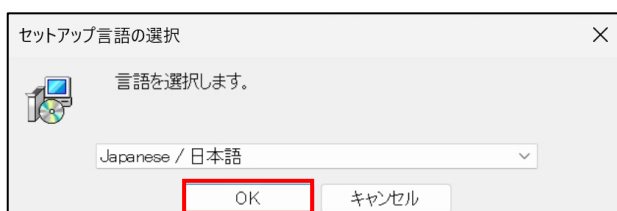
(1) [インストールの開始]

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) の Agent をインストールするコンピュータに、Administrator または、Administrators グループ権限を持つユーザでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」インストールメディアをセットし、[setup.exe] を実行します。

※[ダウンロード](#)した Arcserve_Unified_Data_Protection.exe からインストール可能です。

(2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] が自動選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。



(3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し [次へ] をクリックします。



(4) [インストール タイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection – エージェント] が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



(5) [デスティネーション フォルダの選択]

インストール先フォルダを確認し、[次へ] をクリックします。



(6) [環境設定]

使用するプロトコルを「HTTPS」または「HTTP」から選択します。ここでは、HTTPS(デフォルト)を選択します。また、Windows ファイアウォールに登録するポート番号を確認します。

デフォルトで設定されるポート番号は「8014」です。ここで登録したポート番号を使用して、UDP Agent の操作をリモートのブラウザからも行うことができます。バックアップに使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名]を確認し、[パスワード]を入力後、[次へ]をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

使用許諾契約
インストールの種類
デスティネーション フォルダ
環境設定
ファイアウォールの例外
サマリ
インストールの進捗状況
インストール レポート

環境設定

プロトコル: HTTPS

注: より安全な通信のためには、HTTPS の通信プロトコルが推奨されます。

エージェント ポート: 8014

管理者権限のあるアカウントを指定する

ユーザ名: Administrator

パスワード: ●●●●●●●●

Arcserve UDP エージェントモニタの表示:

☒ すべてのユーザ
☐ 現在のユーザのみ

製品情報
リリースノート
ナレッジ センター

バージョン 11.0 (ビルド 597)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

(7) [ファイアウォールの例外]

Windows ファイアウォールの例外として登録します。内容を確認し、[次へ]をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

使用許諾契約
インストールの種類
デスティネーション フォルダ
環境設定
ファイアウォールの例外
サマリ
インストールの進捗状況
インストール レポート

ファイアウォールの例外

以下のプログラムを Windows ファイアウォールの例外として登録します:

サービス/プログラム	パス
AFD2DMonitor.exe	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\AFD2DMonitor.exe
HATransServer.exe	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\HATransServer.exe
HATransCloudServer.exe	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\HATransCloudServer.exe
ARCUpdate.exe	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Update Manager\ARCUpdate.exe
tomcat10.exe	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Common\TOMCAT\bin\tomcat10.exe

製品情報
リリースノート
ナレッジ センター

バージョン 11.0 (ビルド 597)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



(8) [サマリ]

サマリ内の設定項目が正しければ **[インストール]** をクリックし、インストールを開始します。もし相違があれば **[戻る]** をクリックして前に戻り、再設定します。

The screenshot shows the 'Summary' (サマリ) screen of the Arcserve Unified Data Protection Setup Wizard. The left sidebar contains a list of steps: '使用許諾契約' (License Agreement), 'インストールの種類' (Installation Type), 'デスティネーション フォルダ' (Destination Folder), '環境設定' (Environment Settings), 'ファイアウォールの例外' (Firewall Exceptions), 'サマリ' (Summary), 'インストールの進捗状況' (Installation Progress), and 'インストール レポート' (Installation Report). The 'サマリ' step is selected. The main area displays the following information:

Arcserve Unified Data Protection	
インストール パス	C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\
通信プロトコル	HTTPS

Arcserve UDP エージェント	
ポート番号	8014
ドライバのインストール	はい

At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), 'インストール(I)' (Install), and 'キャンセル' (Cancel). The 'インストール(I)' button is highlighted with a red box.

(9) [インストールの進捗状況]

インストール全体の進捗状況を確認します。

The screenshot shows the 'Progress' (インストールの進捗状況) screen of the Arcserve Unified Data Protection Setup Wizard. The left sidebar is the same as in the previous screen, but 'インストールの進捗状況' is selected. The main area displays a message about AI Assistant and a progress bar.

AI アシスタントによるバックアップ操作とセキュリティの簡易化

ArcGenie AI アシスタントによるエキスパートのアドバイスで効率化を実現できます。ガイド付きのオンボーディングとテナントに対応した AI のアドバイスによって、日常業務、問題解決、および定期日が迅速化されます。最新の SaaS およびオンプレミス用の Arcserve コンソールと ArcGenie AI チャット アシスタント。ガイド付きのオンボーディング、更新されたダッシュボード、RBAC およびテナントに対応した AI のサポートによって、管理者は迅速に行動できます。Arcserve コンソール SaaS およびオンプレミスは、ユーザ エクスペリエンスを向上させ、UDP コンソールと同じセキュリティ ポスチャを提供します*

* 機能を利用するには Arcserve コンソール (Arcserve 管理の SaaS またはオンプレミス) へのマイグレーションが必要です

ご使用のマシンに Microsoft Visual C++ 2022 Redistributable (x86) をインストールしています。

全体の進捗状況:

At the bottom, there are two buttons: '次へ(N) >' (Next) and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a red box.



(10) [インストール レポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、**[完了]** をクリックします。デフォルトは **[更新を今すぐ確認する]** のチェックはオンになっていて、インターネットが接続できる環境であれば、製品の更新を確認し最新の状態にすることができます。



チェックを外し、更新を確認せずに **[完了]** させることもできます。オフライン環境で更新を手動で適用する場合、[こちら](#)よりダウンロードしてください。



(11) [更新の確認]

[更新の確認] 画面からダウンロード経路を選択して**[更新]**をクリックすることで更新の確認が行われ、インストールした Arcserve UDP よりも新しいマイナー リリースが公開されていれば、そのインストーラのダウンロードが開始されます。

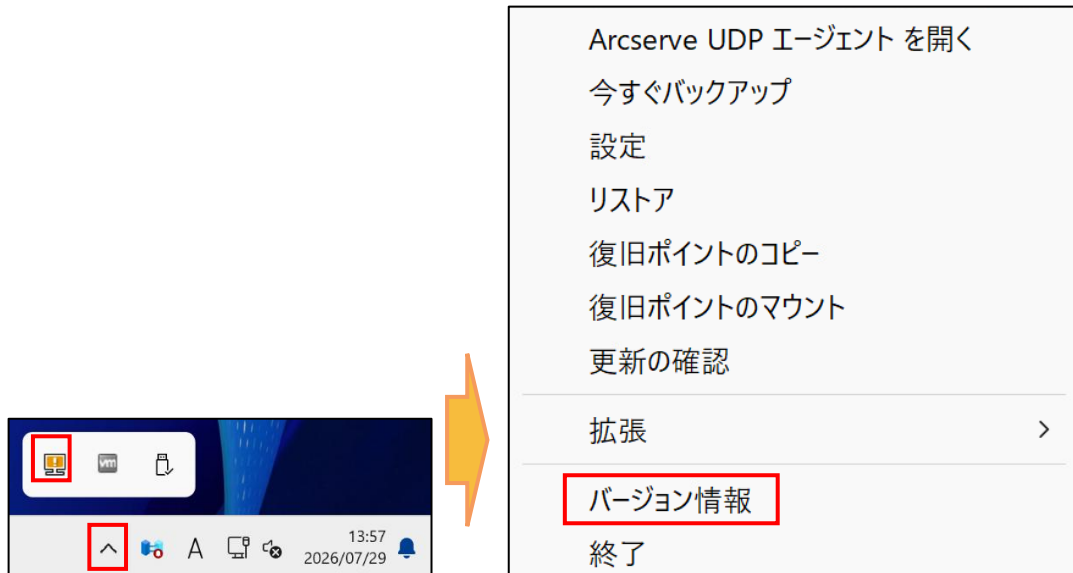
※ OS 構成やアップデート状況により、インストール後に再起動を促される場合があります。再起動を求められた場合は、**[はい]**をクリックしシステムを再起動してください。

1.2 バージョンの確認

最新のアップデートが適用されたか確認するため、バージョンを確認します。

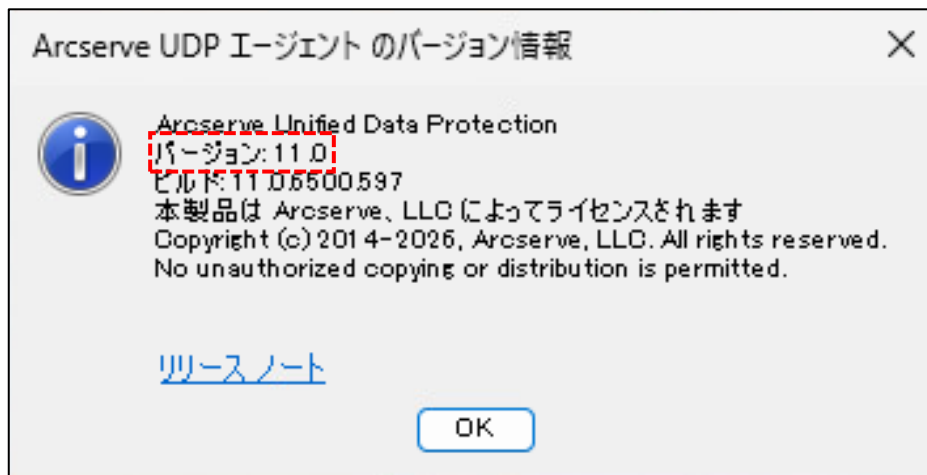
(1). [タスクトレイアイコン]

タスクトレイの UDP アイコンをクリックし、メニュー画面を表示し[バージョン情報]をクリックします。



(2). [バージョンの確認]

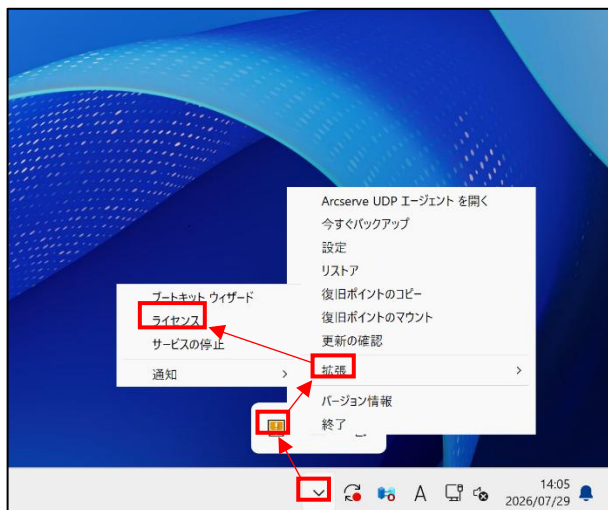
バージョンの確認ができます。



1.3 ライセンス キーの登録

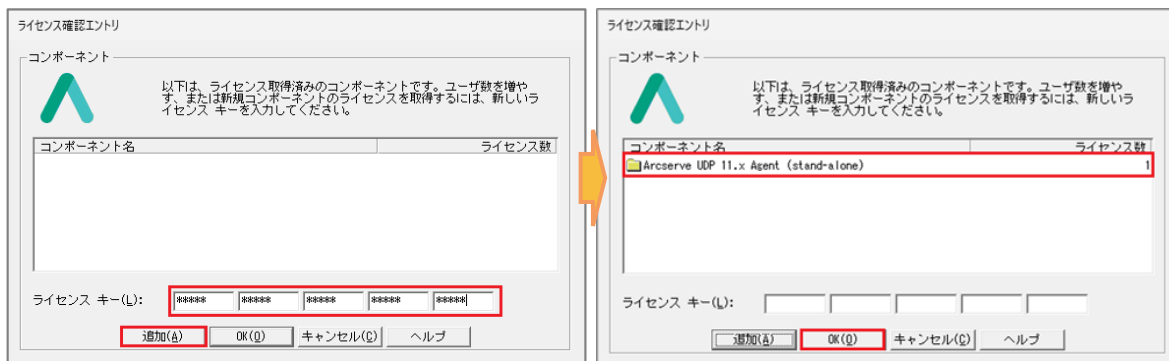
Windows タスクトレイの [エージェント モニタ] アイコンをクリックし [拡張] - [ライセンス] と選択し、[ライセンス確認エントリ] よりライセンス登録を行います。

(1) ライセンス画面の起動



キーの入力

[ライセンス確認エントリ] 画面で、Arcserve UDP Windows エージェントのキーを [ライセンスキー(L)] 欄に入力し、[追加] をクリックします。キーが追加され、コンポーネント名にライセンスが追加されたことを確認し、[OK] で終了します



1.4 修正ファイルの適用

修正ファイルの入手と適用には以下の 2 つの方法があります。

(1) Agent for Windows の更新機能を使用

Agent for Windows のインストールされているマシンで Web へのアクセスが可能な場合、修正ファイルを Arcserve サポート ポータルからスケジュールでダウンロードするか、[ヘルプ] メニューから[更新の確認]で手動にてダウンロードできます。

ダウンロードした修正ファイルは任意の時間に、手動で適用する事が可能です。



(2) Arcserve サポート ポータルを利用

Arcserve サポート ポータルから修正ファイルを手動でダウンロードし、適用します。修正ファイルは以下のリンクからダウンロード可能です。

[Arcserve Unified Data Protection 11.x ダウンロード情報](#)

[Arcserve UDP Patch Index](#)

1.5 Arcserve UDP 11.0 へのバージョン アップグレード

アップグレードは新規インストールと同様のインストーラから行います。

以下よりインストーラをダウンロードしてください。

[Arcserve UDP 11.0 ダウンロード リンク](#)

Arcserve UDP 11.0 は、Arcserve UDP バージョン 9.x および 10.x からのアップグレードに対応しています。

UDP 9.0 より前のバージョンをご利用の場合は、一度 UDP 9.x もしくは UDP 10.x にアップグレードしてから UDP 11.0 へアップグレードしてください。

参考 : Arcserve UDP 9.0 のインストール・アップグレードについて

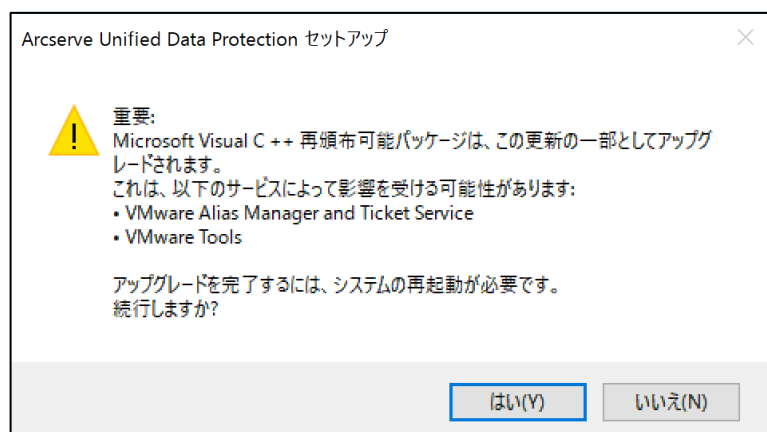
<https://support.arcserve.com/s/article/2023011601?language=ja>

参考 : Arcserve UDP 10.0 のインストール・アップグレードについて

<https://support.arcserve.com/s/article/2024110102?language=ja>

アップグレード手順は、新規のインストール方法とほとんど同様です。

アップグレード開始時、サードパーティ製コンポーネントのアップグレードに関わる注意事項や、再起動があることについての注意喚起のメッセージが表示される場合があります。



※こちらのスクリーンショットは Arcserve UDP 10.0 からのアップグレード時のものです。

アップグレード元のバージョンやシステムの状態によって、表示されるメッセージの有無や内容は異なる場合があります。



アップグレード後、UDP のバージョンが「11.0」であることをご確認ください。

確認手順は、本ガイドの「[1.2 バージョンの確認](#)」をご覧ください。



2. バックアップ運用の開始

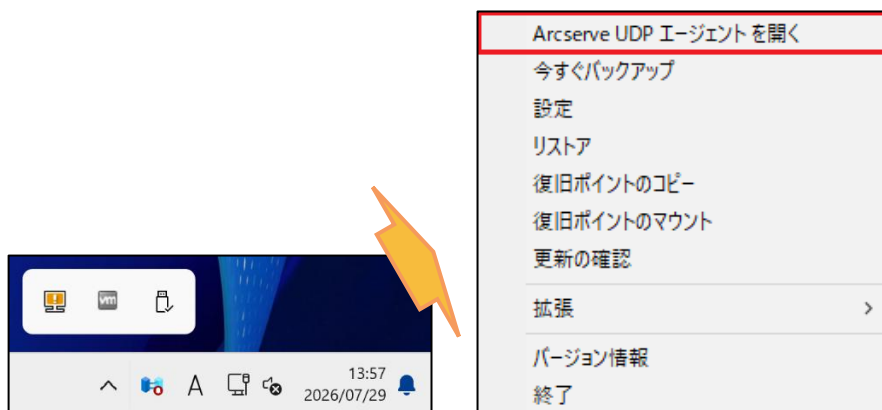
ここではデフォルト設定による最も簡単な運用開始手順を説明します。

以下の説明に従って、初めてバックアップ設定を保存した場合、毎日 22:00 にバックアップが自動的にスケジュールされます。運用要件に応じバックアップ設定を変更するには、本章「3.1 バックアップ スケジュールの設定例」を参照してください。

2.1 バックアップ設定

(1) [設定]

タスクトレイ上の UDP アイコンをクリックし、メニューから **[Arcserve UDP エージェントを開く]** をクリックします。



(2) [UDP エージェントの起動]

既定のブラウザが起動しますが、デフォルトの証明書が証明機関によって識別されないため、警告が表示されます。ここでは Microsoft Edge (バージョン 150.0.4089.105) での例を紹介します。

[詳細設定] を展開し [localhost に進む (安全ではありません)] を選択し続行します。



(3) [証明書エラーの確認]

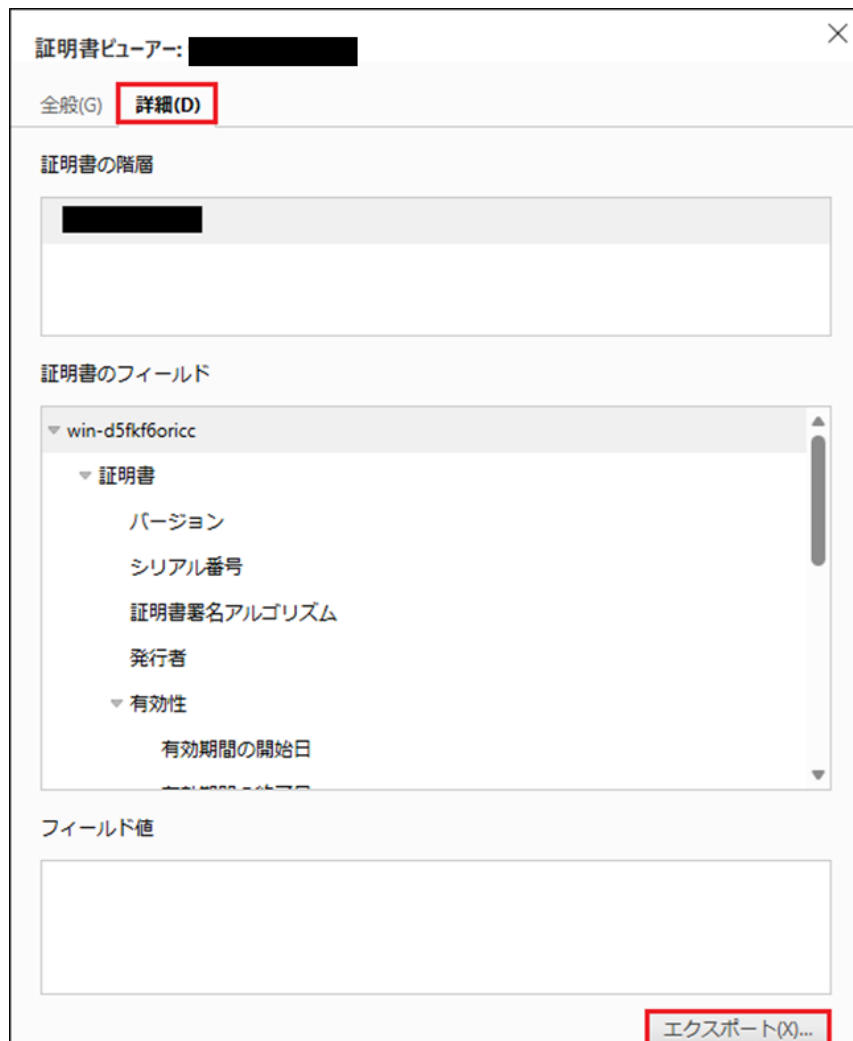
アドレスバーの [セキュリティ保護なし] をクリックし、続いて [>] をクリックします。

証明書アイコン「」をクリックし、サイトの証明書を表示します

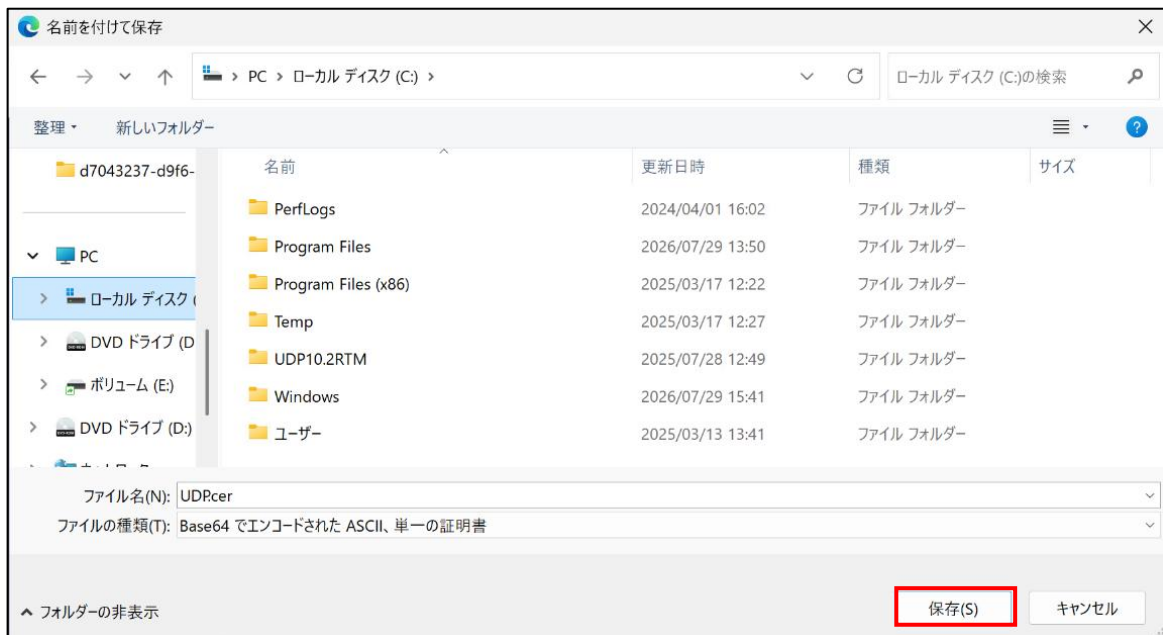


(4) [証明書のエクスポート]

証明書を表示し、[詳細] タブをクリック後、[エクスポート] をクリックします。

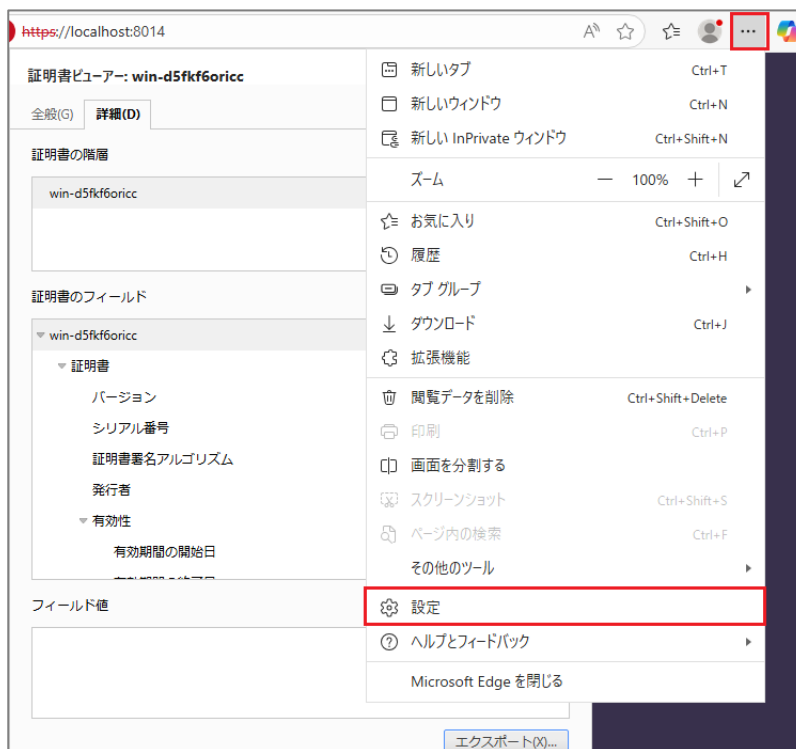


ここではCドライブ直下に [UDP.cer] というファイル名を指定し、[保存]をクリックします。



(5) [証明書のインポート]

- ① Microsoft Edge の [設定] を開きます。



- ② [プライバシー/検索/サービス] を開き、[セキュリティ設定] をクリックします。



- ③ [証明書の管理] をクリックします。



- ④ 証明書マネージャー より [Windows からインポートされた証明書を管理] をクリックします。



- ⑤ **[信頼されたルート証明機関]** タブで、**[インポート]** をクリックします。



- ⑥ **[次へ]** をクリックします。



- ⑦ インポートする証明書ファイルを **[参照]** ボタンを押し、先ほどエクスポートした 証明書ファイルを選択し、**[次へ]** をクリックします。

← 証明書のインポート ウィザード

インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):
C:\UDRcer 参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N) キャンセル

- ⑧ **[証明書をすべて次のストアに配置する]**を選択し、証明書ストアに **[信頼されたルート証明機関]**が表示されていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。

← 証明書のインポート ウィザード

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

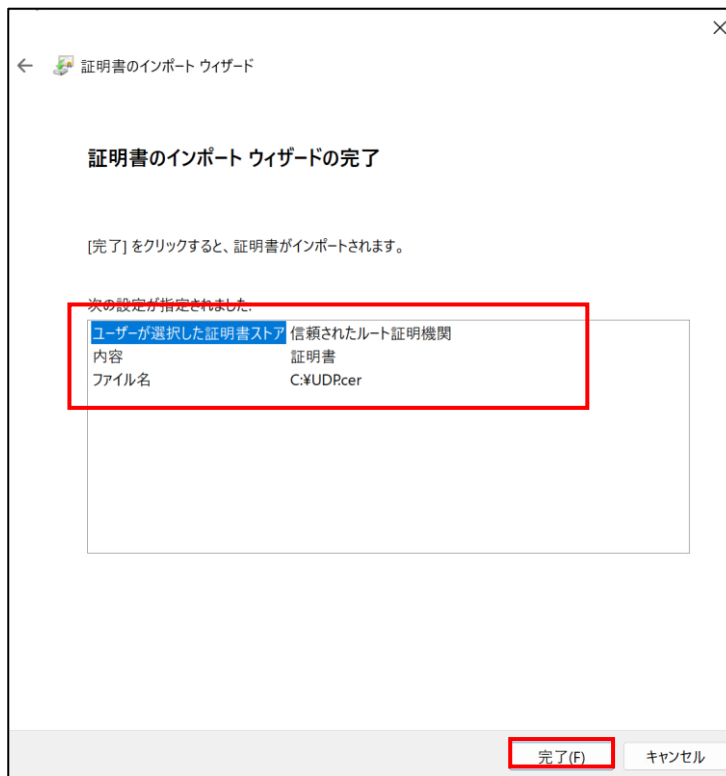
☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

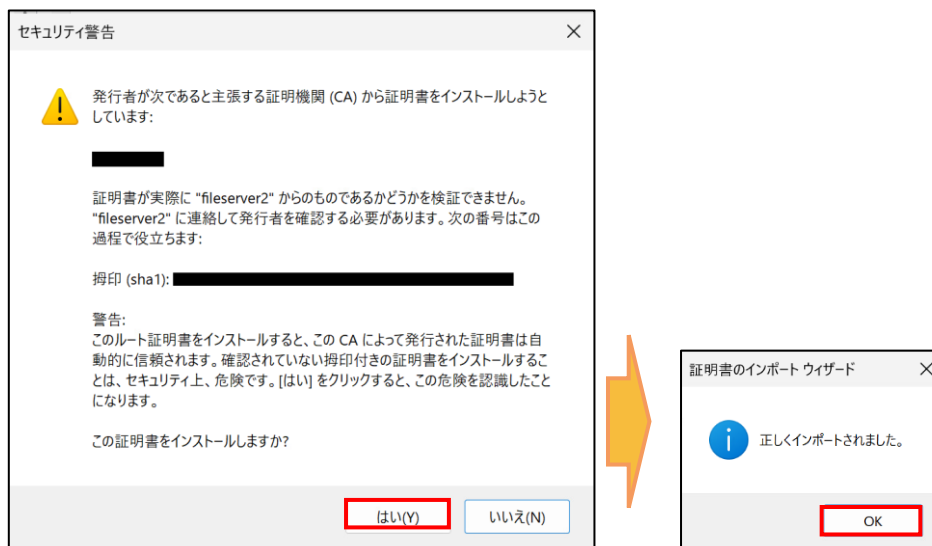
証明書ストア:
信頼されたルート証明機関 参照(R)...

次へ(N) キャンセル

- ⑨ 先ほどエクスポートした 証明書ファイルが選択されていることを確認し、**[完了]** をクリックします。



- ⑩ セキュリティ警告画面で、**[はい]** をクリックし証明書をインポートします。「正しくインポートされました」と表示されたことを確認し**[OK]** をクリックします。

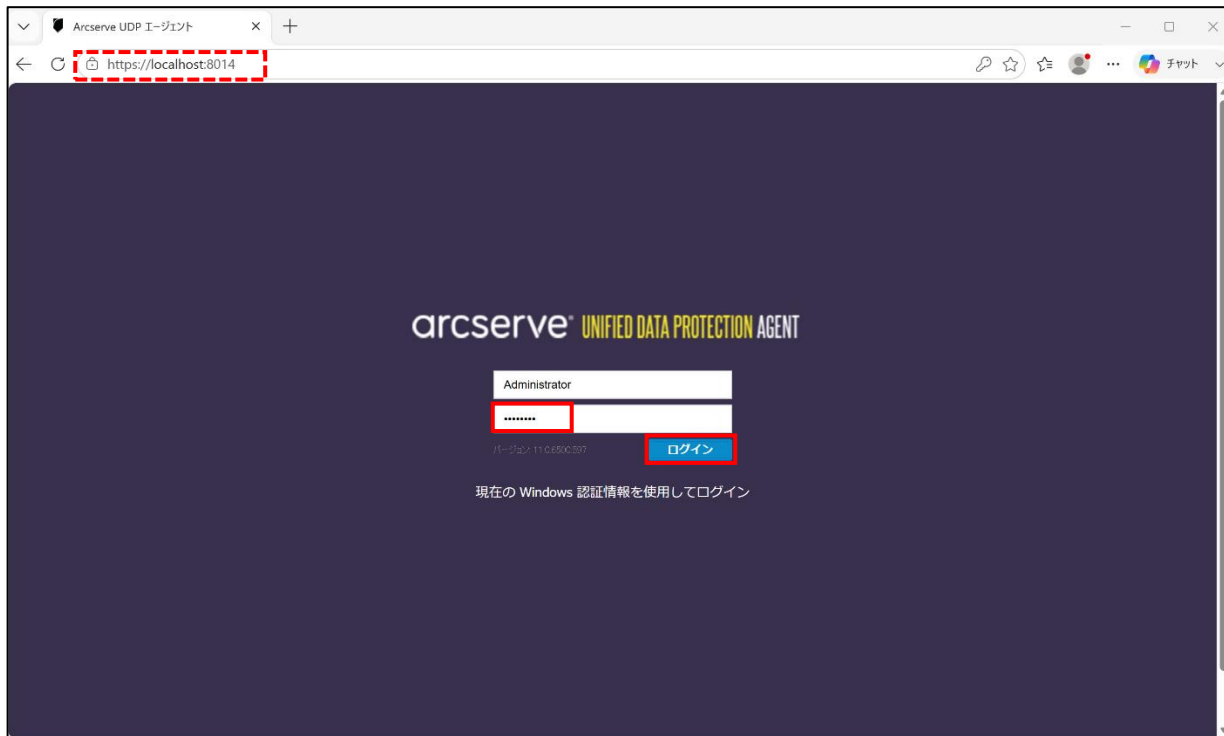


- ⑪ 証明書マネージャを閉じます。



(6) [ログイン]

ブラウザの再起動後、(1)の手順で再度 **[Arcserve UDP エージェント開く]** をクリックし、UDP エージェントのログイン画面を開き、証明書エラーが解消されていることを確認します。インストール時に指定した管理者アカウントが表示されるので、**[パスワード]** を入力し **[ログイン]** をクリックします。



(7) [Arcserve UDP エージェントの使用方法]

初回ログイン時に **[Arcserve UDP エージェントの使用方法]** 画面が表示されます。この画面内の**[設定]**をクリックすると、(9)で設定する **[保護設定]** を直接開くこともできますが、このガイドでは、この画面を閉じて、Arcserve UDP のホーム画面から設定操作を行う手順で解説します。

次回ログイン時に、この画面を表示させたくない場合は、**[今後、このダイアログボックスを表示しない]** にチェックを入れてから、**[閉じる]** をクリックします。



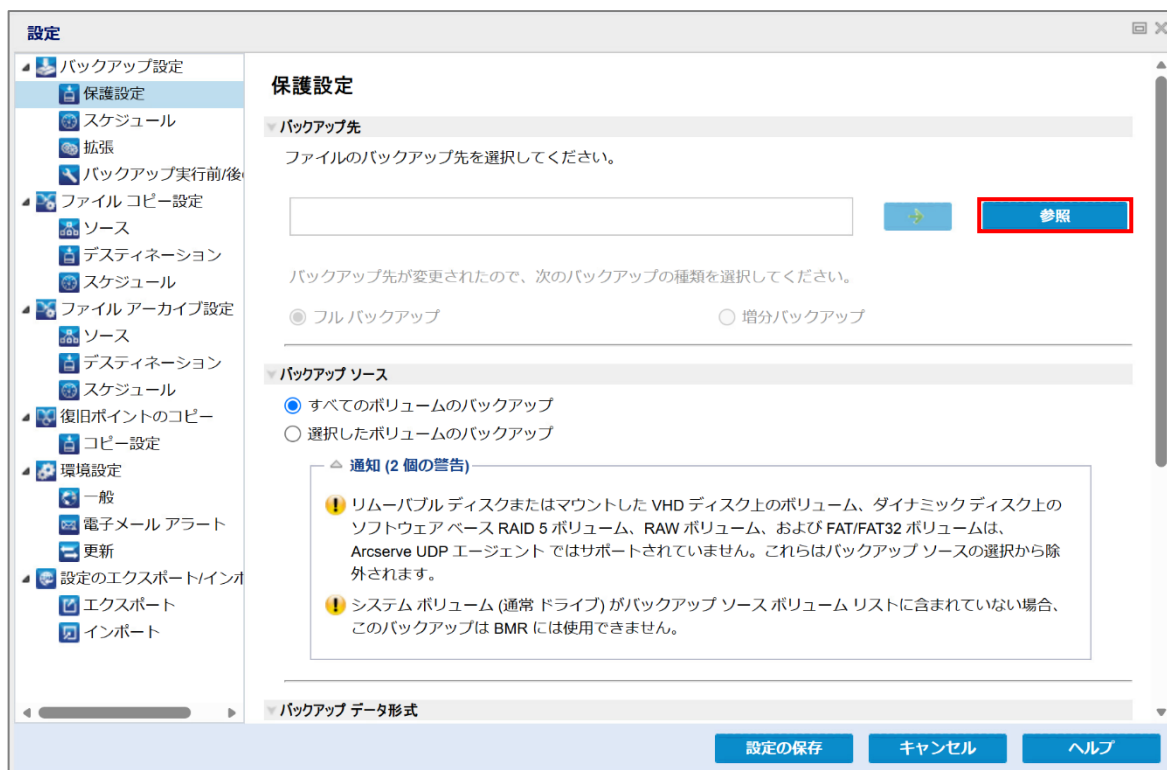
(8) [設定]

Arcserve UDP ホーム画面右側の [ナビゲーション] タブ内の [設定] タスクをクリックします。



(9) [バックアップ設定] - [保護設定] - [バックアップ先]

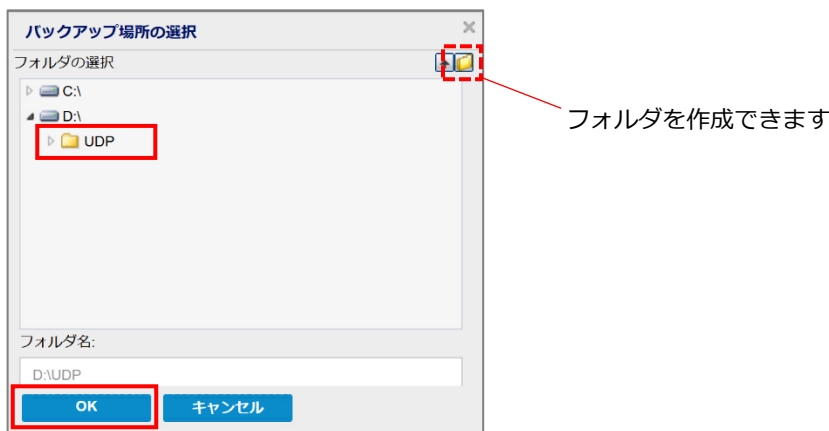
最小限の設定でバックアップを実行するには [バックアップ先] の指定が必要です。「バックアップ先」の [参照] ボタンをクリックし、バックアップ先フォルダを指定します。



(10) [バックアップ場所の選択]

バックアップデータの保管先フォルダの選択を行い **[OK]** をクリックします。

このガイドの例では D ドライブの「D:\UDP」をバックアップ先フォルダとして指定します。

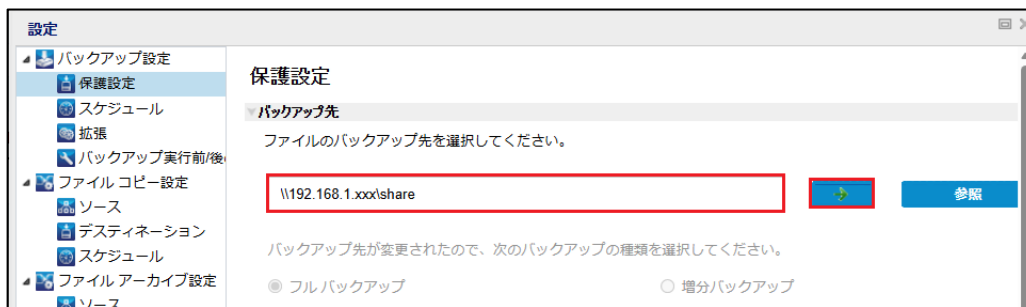


※ UDP ではローカル ディスク内のフォルダをバックアップ先として指定した場合、バックアップ先フォルダを含むディスク全体がバックアップ対象から除外されます。全てのディスクをバックアップ対象にする必要がある場合は、以下の「バックアップ先として共有フォルダを設定する方法」を参照し、共有フォルダをバックアップ先として設定します。

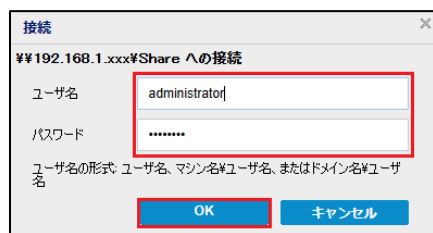
[バックアップ先として共有フォルダを指定する方法] :

共有フォルダをバックアップ先として指定する際には、“ ¥¥ ”で始まる UNC パス形式でサーバ名もしくは IP アドレスを指定し共有名を直接入力します。

以下の入力例では 192.168.1.xxx という IP アドレスを持つサーバの [Share] という名称の共有フォルダをバックアップ先として指定しています。入力後、共有フォルダにアクセスするために必要なアカウント情報を保存するため、テキストボックス横の緑色の→アイコンをクリックします。



共有フォルダに接続するためのアカウント情報を入力後 **[OK]** をクリックし、接続アカウント情報を保存します。



(11) [設定の保存]

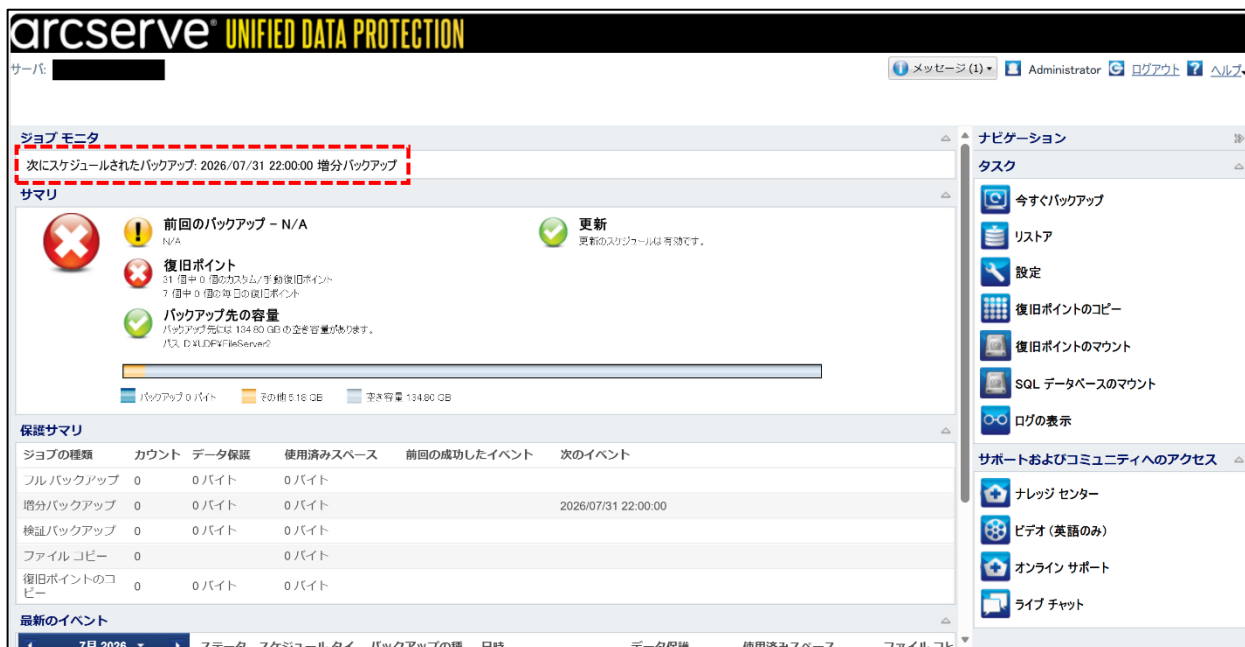
[設定の保存] をクリックし設定を保存します。保存が完了すると、自動的にデフォルトのバックアップスケジュールが設定され、バックアップ運用が開始されます。



(12) [スケジュール確認]

バックアップ スケジュールが登録され運用が開始されます。バックアップ中のステータスや次回のスケジュールは UDP ホーム ページ内の [ジョブ モニタ] から確認することができます。

デフォルトでは 22:00 にバックアップが開始されます。



挙動を確認するために、[今すぐバックアップ] から手動ですぐにバックアップを開始することもできます。



その際、バックアップの種類が指定できます。

デフォルトは「増分バックアップ」となっていますが、初回はフル バックアップが動作し、2 回目以降のバックアップが増分となります。

また、「スケジュール タイプ」の指定ができます。



デフォルトは「カスタム」となっていますが、ここで「毎日」などのスケジュール ジョブ用のタイプを選択することで、このバックアップをスケジュール ジョブ扱いで実行することが可能で、これによりバックアップ データ全体のサイズを削減できる場合があります。

詳細は以下のブログ記事をご参照ください。

Arcserve UDP 9.0 新機能紹介 (1) : 手動バックアップをスケジュール ジョブとして実行

<https://arcserve.txt-nifty.com/blog/2023/01/post-f48680.html>



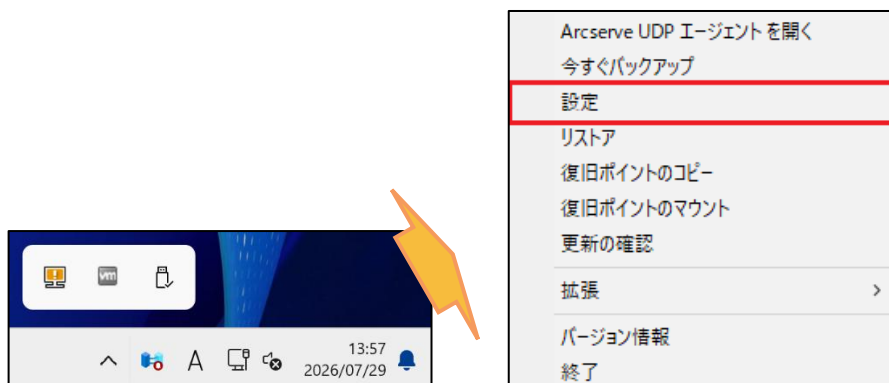
3. バックアップ スケジュールの設定例

3.1 バックアップ スケジュールの設定例

ここでは、月曜日から金曜日の 23 時に増分バックアップを行い、土曜日および日曜日にはバックアップを実施しない例を紹介します。

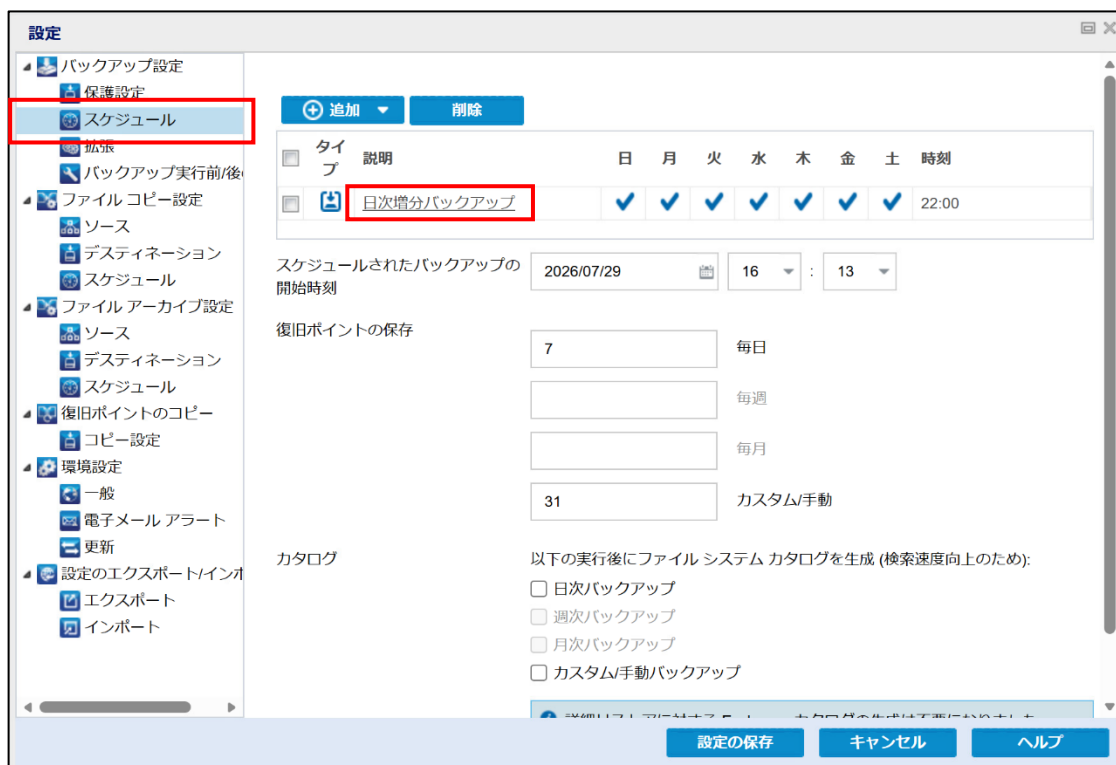
(1) [設定]

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、[設定] をクリックします。



(2) [設定] - [スケジュール]

デフォルト スケジュールを変更するには、[設定] - [スケジュール] タブをクリックし、[日次増分バックアップ] をクリックします。



[バックアップ スケジュールの編集]

[日次増分バックアップ] をクリックし、以下のように設定し、[保存] をクリックします。

開始時刻 : 23:00

曜日 : ☐月曜日 ☐火曜日 ☐水曜日 ☐木曜日 ☐金曜日

保持するバックアップ数 : 5

[設定の保存]

月曜日から金曜日の 23 時にバックアップを実行する設定が完了しました。[設定の保存] をクリックします。

※カスタム/手動 バックアップで保持する復旧ポイント数は、デフォルトでは「31」です。

バックアップ要件にあわせて変更してください。

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
☒	バックアップ								
☒	日次増分バックアップ			☒	☒	☒	☒	☒	23:00

通知

手動 (アドホック) バックアップについては、カスタム/手動バックアップ スケジュール用に設定された保存設定はまだ適用されます。

スケジュールされたバックアップの開始時刻: 2026/07/29 16:13

復旧ポイントの保存: 5 毎日

5 毎週

5 毎月

31 カスタム/手動

カタログ

以下の実行後にファイル システム カタログを生成 (検索速度向上のため):

☐ 日次バックアップ

設定の保存 キャンセル ヘルプ

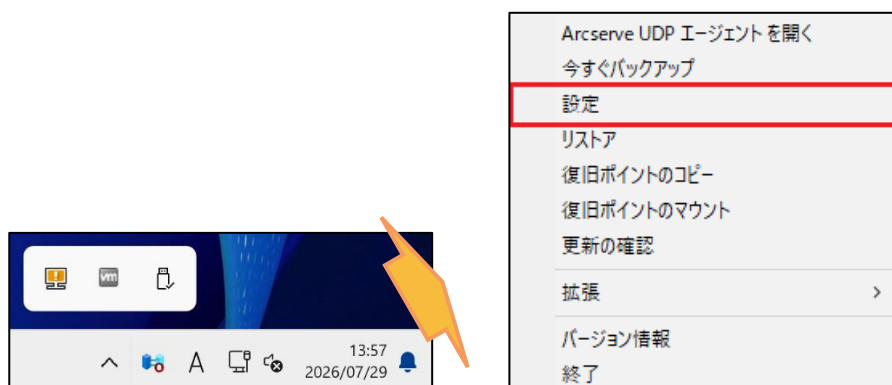
4. バックアップ 設定のエクスポートとインポート

4.1 バックアップ 設定のエクスポート

設定した情報は、ファイルとして保管することができます。ここでは設定ファイルのエクスポートの方法を紹介します。

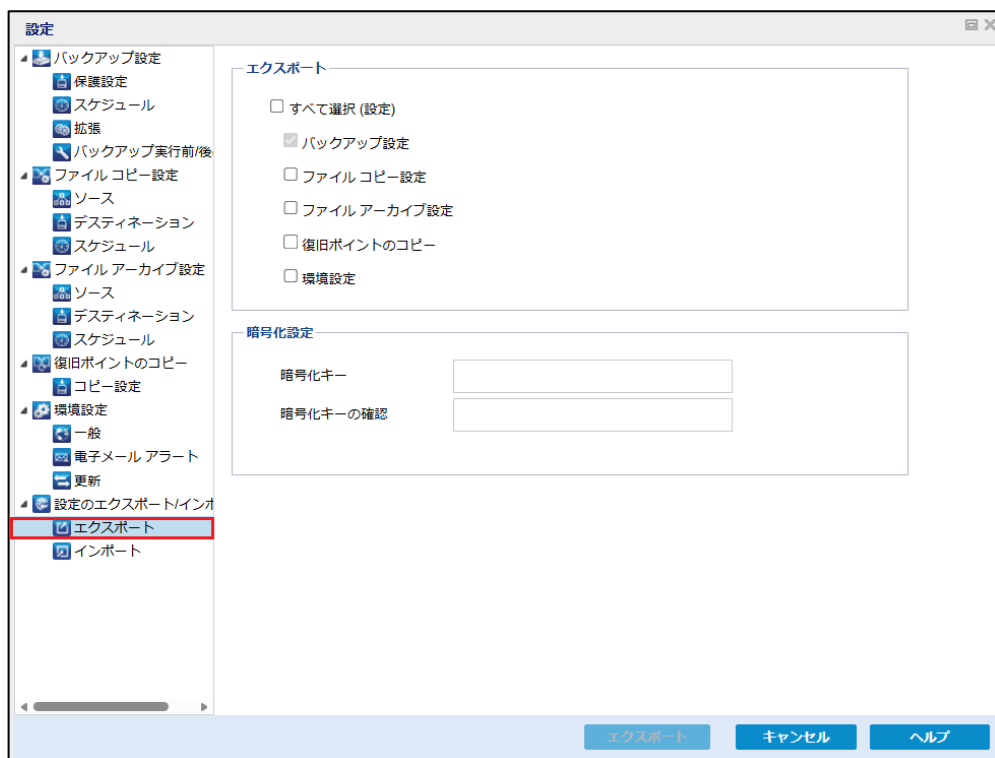
(1) [設定] 画面の起動

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、**[設定]** をクリックします。



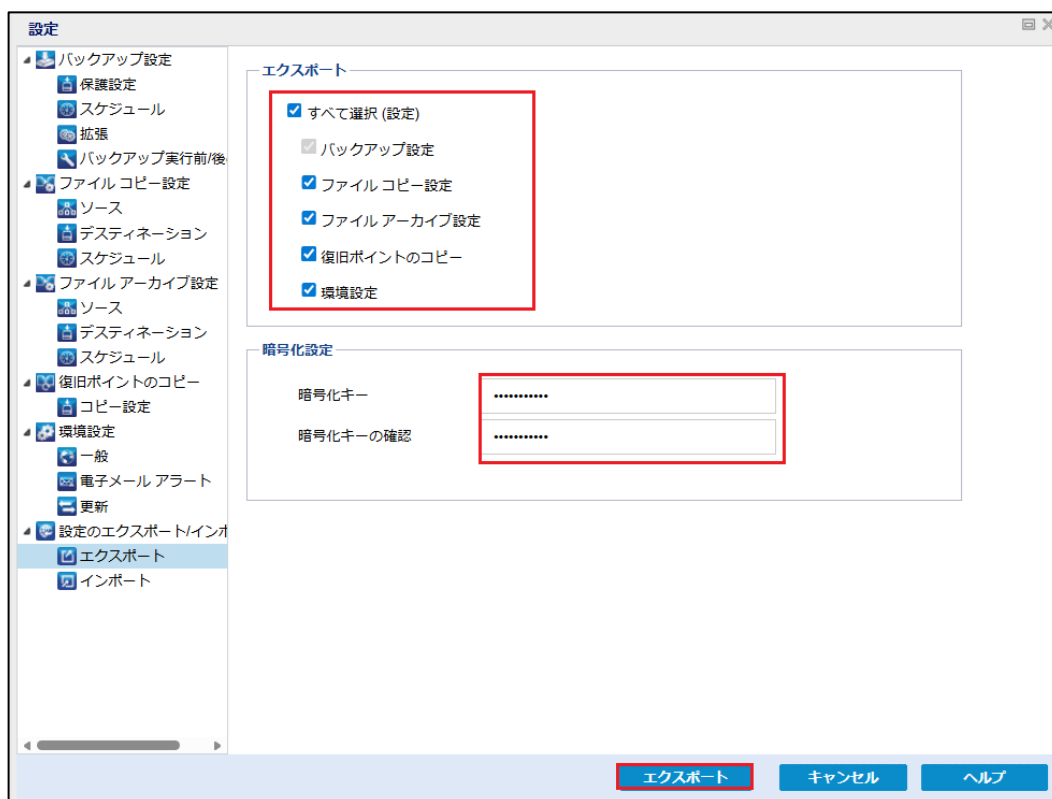
(1) [設定]

バックアップ スケジュールの設定をエクスポートする場合は、**[設定] - [エクスポート]** メニューで行います。

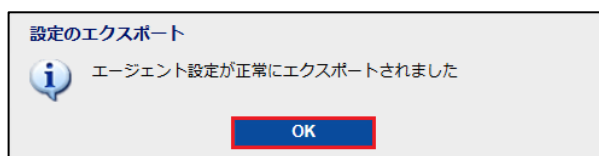


(3) [エクスポート]

エクスポートする設定情報を選択します。ここでは **[すべて選択]** にチェックを入れ、すべての設定をエクスポートします。暗号化設定では **[暗号化キー]** を入力し (必須)、**[エクスポート]** をクリックします。



エクスポートが完了したら、**[OK]** をクリックします。



エクスポートが完了すると、Windows のダウンロードフォルダ「AgentSetting_*****.json」という名称でファイルが保存されます。(*****はユニークな数字 15 桁)

※ 設定した暗号化キーを忘れないよう、適宜適切な場所に保管してください。暗号化キーを忘れると、インポートができなくなりますので十分にご注意ください。



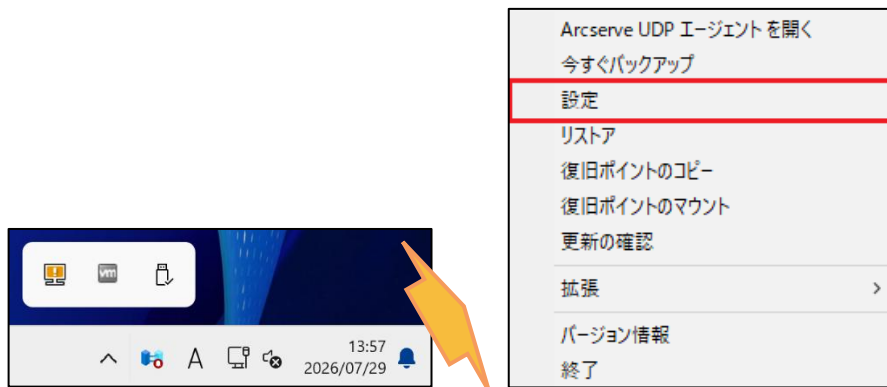
4.2 バックアップ 設定のインポート

エクスポートした設定ファイルから、設定内容を復元することができます。ここでは、設定ファイルをインポートする方法を紹介します。

なお、バックアップ先のフォルダや共有フォルダへのアクセスなどの構成が、設定をエクスポートした環境の設定とインポートする対象の環境の設定が同じである必要があります。

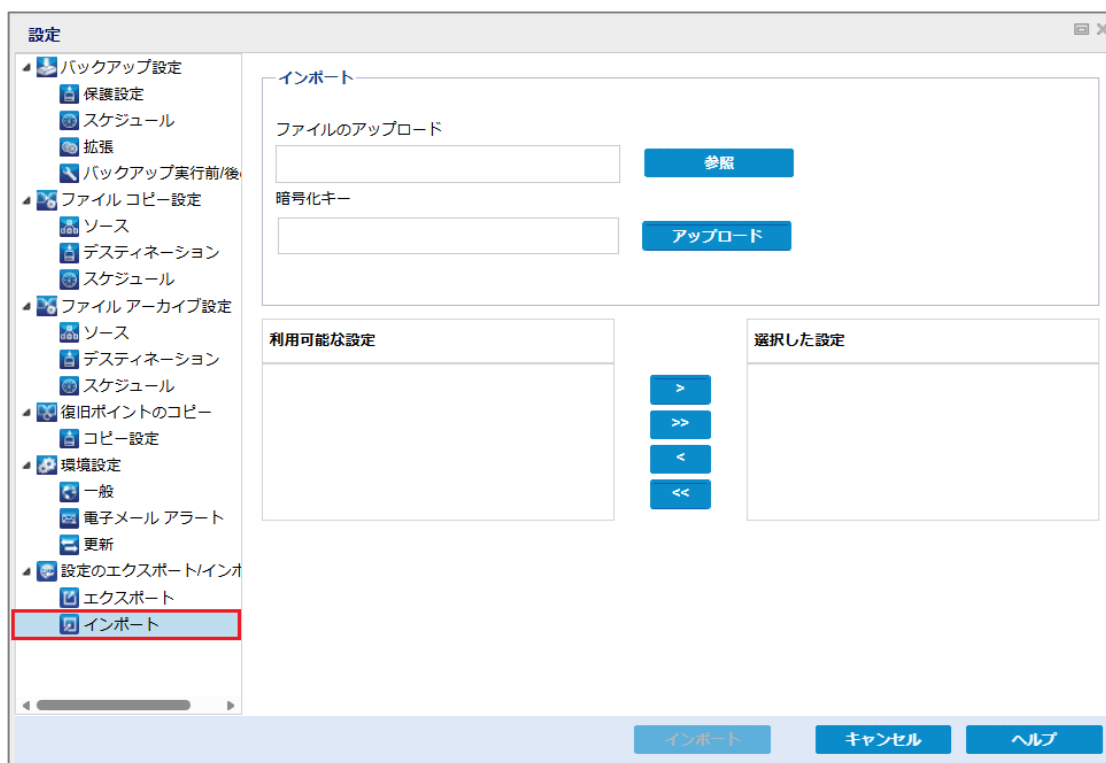
(1) [設定] 画面の起動

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、**[設定]** をクリックします。



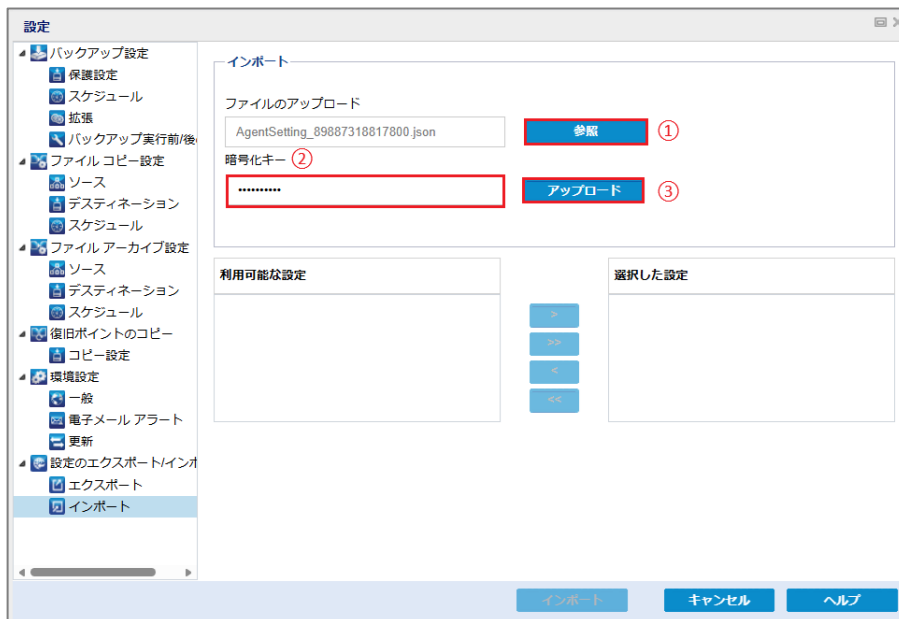
(2) [設定]

バックアップ スケジュールの設定をインポートする場合は、**[設定] - [インポート]** メニューで行います。



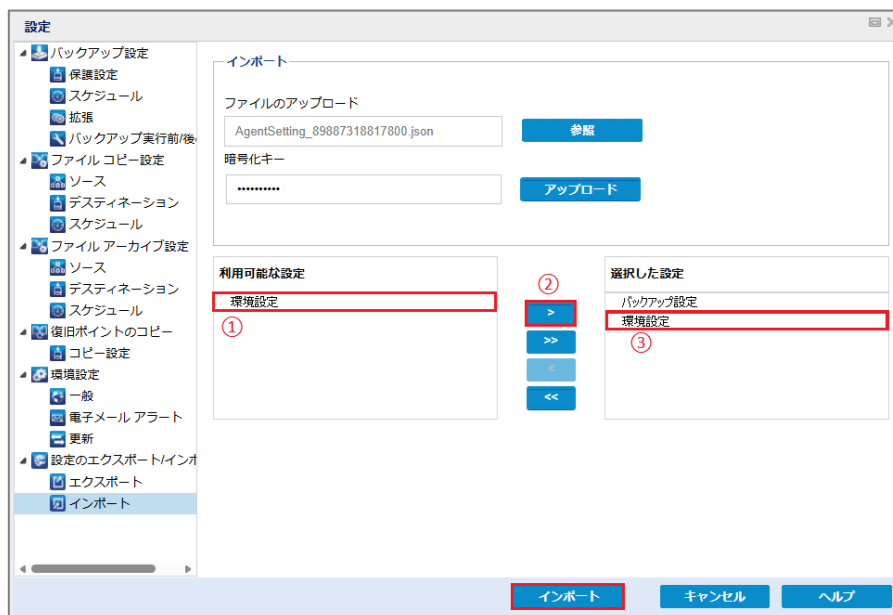
(3) [インポート] - [ファイルのアップロード]

①[参照] からインポートファイルを選択、②[暗号化キー] を入力して ③[アップロード] をクリックします。

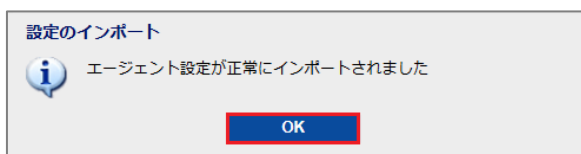


(4) [インポート] - [選択した設定]

①[利用可能な設定] からインポートしたい設定を選択し、② > をクリックして ③[選択した設定] に追加後、[インポート] をクリックします。



インポート完了後 [OK] をクリックし、設定内容を確認します。



5. ベアメタル復旧

ベアメタル復旧 (BMR) とはベアメタル (まっさら) なハード ディスクへシステム全体を復旧し、サーバを元通りに回復する復旧手段です。UDP では OS やアプリケーションをインストールすることなく、バックアップ取得時の状態にシステム全体を回復させることができます。UDP はこのベアメタル復旧を**標準機能**として提供しています。

本章では、復旧メディアの作成方法や最も簡単な [高速モード] を使って、ローカルディスク或いは、共有フォルダや NAS に保存されているバックアップ イメージからベアメタル復旧を行う手順を説明します。

UDP はベアメタル復旧を行う際に Windows PE (Windows Pre-Install Environment: Windows プレインストール環境) ベースの復旧メディア (ISO イメージまたは USB メモリ) を使用します。

この復旧メディアには、ベアメタル復旧の実行に必要な情報がすべて含まれており、「ブートキットの作成」ウィザードを使用して作成できます。

本資料では、Windows Server 2025 用の復旧メディア (ISO イメージ) を作成する方法についても併せて説明します。

「ブートキットの作成ウィザード」では、OS 標準ドライバとして組み込まれていない任意のストレージやネットワーク インタフェース カードのドライバを復旧メディアに組み込むことができます。ドライバを組み込まずメディアを作成することも可能ですが、その場合でも必要に応じて復旧作業中に任意のドライバをロードして使用することができます。従って、ドライバの組み込み有無に関係なく、同一 OS バージョンの復旧であれば、復旧メディアを汎用的に使いまわすことができます。この復旧メディアを作成するには Windows ADK (Windows アセスメント & デプロイメント キット) および Windows PE アドオンをダウンロードし、インストールする必要があります。インストールが必要なキットは復旧対象サーバの OS バージョンによって異なります。詳細は「[5.1 復旧メディアの作成](#)」を参照ください。

※Windows 10 バージョン 1809 以降、Windows PE アドオン は Windows ADK とは別にリリースされるようになりました。必ず Windows ADK と共に、ADK 用の Windows PE アドオンも導入します。導入方法は後述します。



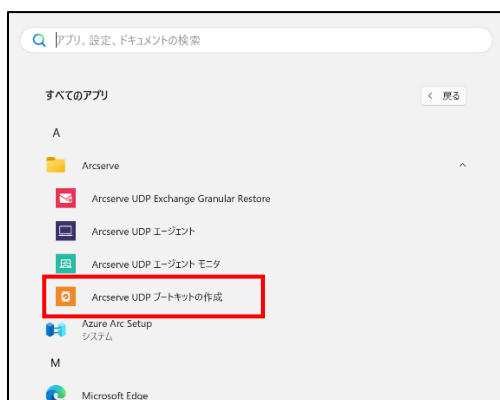
5.1 復旧用メディアの作成

本章では、ブートキットの作成ウィザード実行時に、Windows ADK をダウンロードし復旧メディアを作成する一連の操作を記載します。

UDP Windows Agent がインストールされた OS からインターネットにアクセスできない環境の場合は、アクセス可能な環境から Windows ADK を事前にダウンロードし、Windows ADK をインストールする手順が必要となります。

[ブートキットの作成] ウィザードの起動

Windows スタートメニューから、[すべてのプログラム] - [A] - [Arcserve] のメニューを展開し、**[Arcserve UDP ブートキットの作成]** を選択します。



(1) [Windows ADK または AIK 情報]

この時点で 作業環境に Windows ADK および Windows PE アドオンがインストールされていない場合は、[Windows ADK または AIK 情報] 画面が表示されます。

※Windows ADK がインストール済みの方は手順 [\(5\) \[ブートキット方式の選択\]](#) へ進んでください。

※本ガイドでは Windows ADK 10.1.26100.2454 を使用し Window Server 2025 を復旧する手順を説明します。OS 毎に必要な ADK バージョンについては [UDP 11 注意/制限事項](#)の「ベア メタル復旧用メディア作成に関する注意/制限事項」をご確認ください。

Windows ADK のダウンロード センターから **Windows ADK** と **Windows PE アドオン** のインストーラをダウンロードするために、[\[ここをクリックすると、\]](#)をクリックします。





参考 : オフライン環境の場合

Windows ADK と Windows PE アドオンのインストーラをあらかじめダウンロードしておくことで、オフライン環境でのインストールが可能です。ダウンロード先には両方合わせて約 5.5 GB 以上の空き容量が必要となります。

Windows Server 2025 用の ADK および Windows PE アドオンは以下のサイトよりダウンロードしインストールしてください。

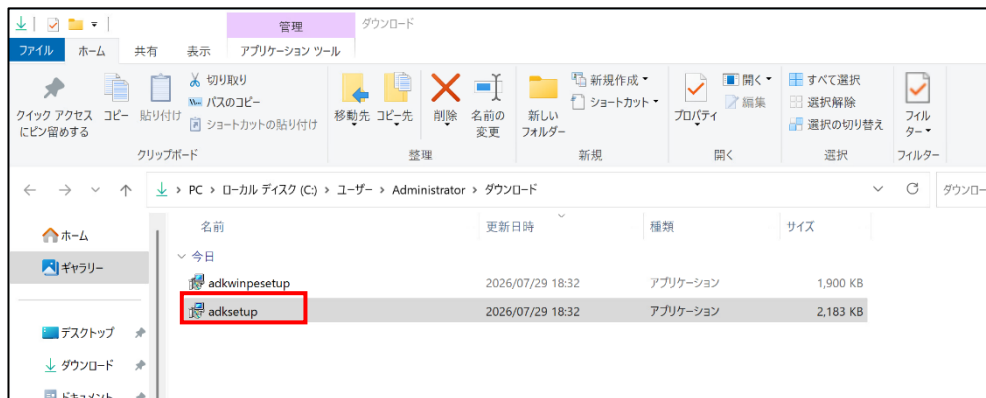
[ADK 10.1.26100.2454 をダウンロードする \(2024 年 12 月\)](#)



(4) <ADK for Windows Server 2025 のインストール>

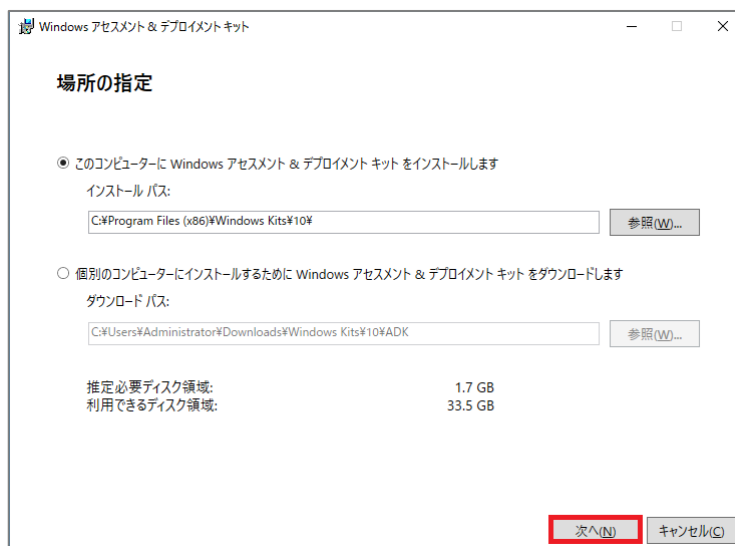
① [Windows ADK セットアッププログラムの実行]

ダウンロード、もしくは配置した adksetup.exe をダブルクリックするなどして、実行します。



[場所の指定]

Windows ADK のインストール先フォルダを指定し [次へ] をクリックします。



② [Windows キット プライバシー]

Windows キットの使用状況を匿名で Microsoft 社に送信するか設定します。このガイドでは **[はい]** のまま **[次へ]** をクリックします。(送信したくない場合は **[いいえ]** を選択してください。)

Windows アセスメント & デプロイメントキット

Windows キット プライバシー

Windows キットは、お客様が Microsoft プログラムをどのように使用されているか、および遭遇された一部の問題に関する分析情報を収集します。これらの分析情報により、Microsoft は Windows および Windows Server の改善を推進し、アプリケーションおよびデバイス ドライバーの品質を向上させます。分析情報は、特定の構成でのアプリケーションとデバイス ドライバーに関する重要な信頼性とセキュリティの問題をすばやく特定して修正するのに役立ちます。たとえば、特定のバージョンのビデオ ドライバーを使用してデバイスでハングするアプリケーションを特定できるため、アプリケーションおよびデバイス ドライバーのベンダーと協力して問題に対処できます。その結果、これらの問題のトラブルシューティングに関連して、ダウンタイムが短縮され、コストが削減され、生産性が向上します。プログラムへの参加は任意であり、最終的にはお客様のニーズをよりよく満たすためのソフトウェアの改善になります。お客様が作成したコードやソフトウェアは収集されません。

[Windows プログラムに関するご意見をお寄せください。](#)

Microsoft が Windows キットの分析情報を収集できるようにしますか？

☒ はい(Y)

☐ いいえ(N)

* プログラムにご参加いただく場合、このコンピュータにインストールされているすべての Windows キットが対象になります。

[プライバシーに関する声明](#)

戻る(B) **次へ(N)** キャンセル(C)

③ [使用許諾契約]

使用許諾を確認し、**[同意する]** をクリックします。

Windows アセスメント & デプロイメントキット

使用許諾契約

続行するには、この契約の条項に同意する必要があります。マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項に同意しない場合は、[同意しない] をクリックします。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

WINDOWS ASSESSMENT AND DEPLOYMENT KIT (ADK)

本ライセンス条項は、お客様と Microsoft Corporation (または系列会社の中の 1 社) との契約を構成します。本ライセンス条項は、上記の本ソフトウェア、およびマイクロソフトのサービスまたはソフトウェア更新プログラムに適用されます (ただし、これらのサービスまたは更新プログラムに新しい条項または追加条項が付属している場合は、当該別途の条項が将来に向かって適用され、更新前のソフトウェアまたはサービスに関するお客様またはマイクロソフトの権利は変更されません)。本ライセンス条項を遵守することを条件として、お客様は以下の権利が許諾されます。本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。

1. インストールと使用権。
 - a. ADK。
 - i. 本契約の条項を条件として、お客様は、展開、保守およびシステム品質の評価、ならびに Windows サーバーの互換性のあるバージョンおよび Windows クライアント オペレーティング システム (サポート終了日前のもの) に依存するお客様のシステムとデバイスの評価を行う目的に限り、本ソフトウェアの任意の部数の複製をお客様のデバイスにインストールして使用することができます。
 - ii. **Windows プレインストール環境。**本ライセンス条項に従うことにより、お客様は、Windows オペレーティング システム ソフトウェアをインストールおよび復旧する目的で、Windows プレインストール環境をインストールして使用することができます。誤解を避けるため、本ライセンス条項において明示的に許可されていないその他の目的 (一般的なオペレーティング システム、シングルクライアント、または

戻る(B) **同意する(A)** 同意しない(D)



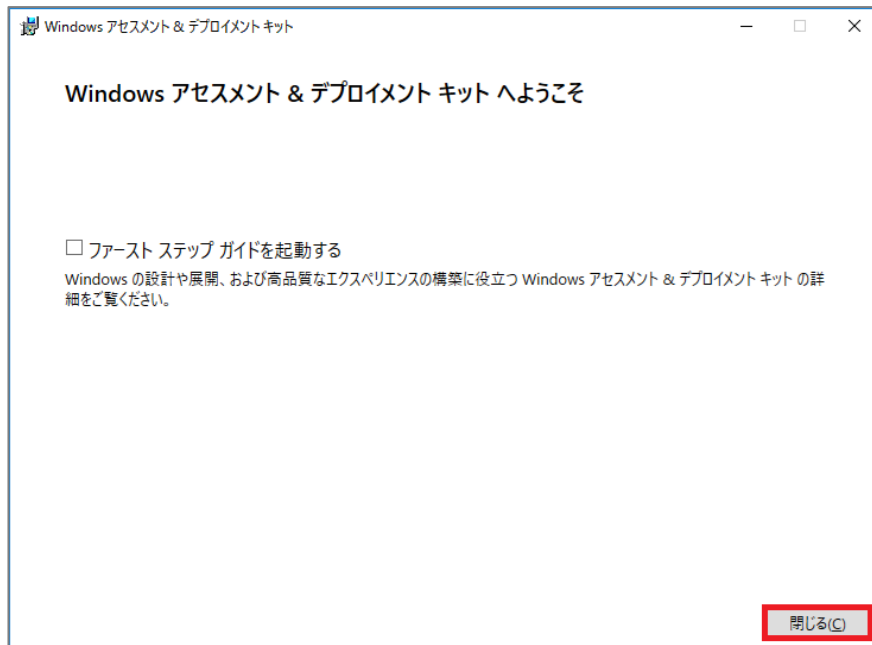
④ [インストールを行う機能を選択してください]

復旧メディアを作成する目的の場合は「Deployment Tools」のみを選択し、[インストール] をクリックします。



⑤ [Windows アセスメント & デプロイメント キット へようこそ]

インストール完了後、[閉じる] をクリックします。



以上で、Windows ADK のインストールは完了です。

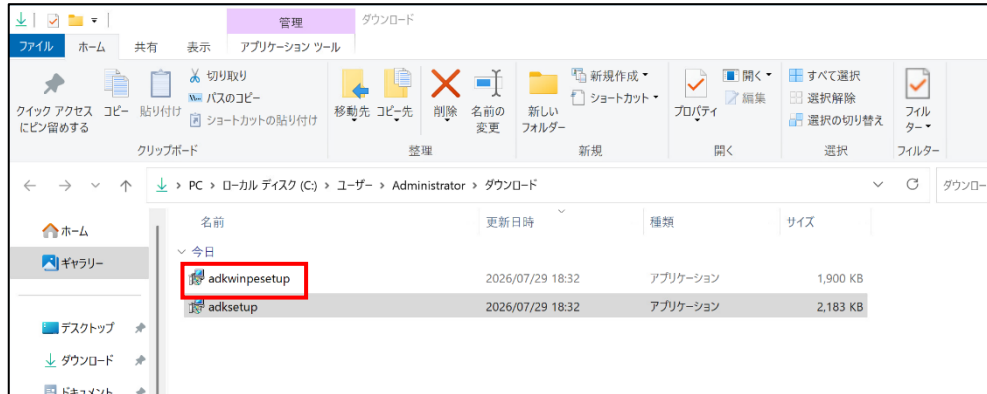


<ADK 用 Windows PE アドオンのインストール>

① [ADK 用 Windows PE アドオンのセットアッププログラムの実行]

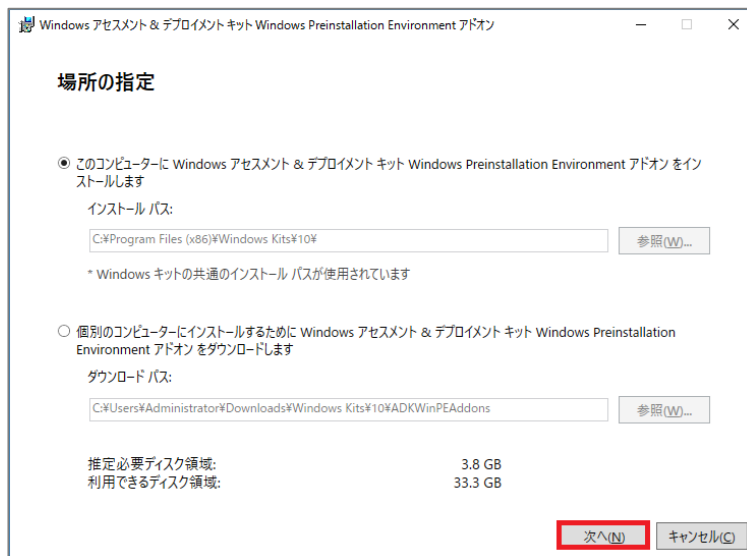
ダウンロード、もしくは配置した adkwinpesetup.exe をダブルクリックするなどして、実行します。

本シナリオでは、Windows Server 2025 用 ADK の Windows PE アドオン をインストールします。



② [場所の指定]

Windows PE アドオンのインストール先フォルダを指定し、[次へ] をクリックします。



③ [Windows キット プライバシー]

Windows キットの分析情報を匿名で Microsoft に送信するか設定します。ここでは **[はい]** のまま **[次へ]** をクリックします。(送信したくない場合は「いいえ」を選択してください。)

Windows アセスメント & デプロイメント キット Windows Preinstallation Environment アドオン

Windows キット プライバシー

Windows キットは、お客様が Microsoft プログラムをどのように使用されているか、および遭遇された一部の問題に関する分析情報を収集します。これらの分析情報により、Microsoft は Windows および Windows Server の改善を推進し、アプリケーションおよびデバイスドライバの品質を向上させます。分析情報は、特定の構成でのアプリケーションとデバイスドライバに関する重要な信頼性とセキュリティの問題をすばやく特定して修正するのに役立ちます。たとえば、特定のバージョンのビデオドライバを使用してデバイスでハングするアプリケーションを特定できるため、アプリケーションおよびデバイスドライバのベンダーと協力して問題に対処できます。その結果、これらの問題のトラブルシューティングに関連して、ダウンタイムが短縮され、コストが削減され、生産性が向上します。プログラムへの参加は任意であり、最終的にはお客様のニーズをよりよく満たすためのソフトウェアの改善になります。お客様が作成したコードやソフトウェアは収集されません。

[Windows プログラムに関するご意見をお寄せください。](#)

Microsoft が Windows キットの分析情報を収集できるようにしますか？

☒ はい(Y)

☐ いいえ(N)

* 現在 CEIP プログラムに参加しています。プログラムに参加すると、このコンピューターにインストールされているすべての Windows キットが対象になります。

[プライバシーに関する声明](#)

戻る(B)

次へ(N)

キャンセル(C)

④ 「使用許諾契約」

使用許諾内容を確認し、**[同意する]** をクリックします。

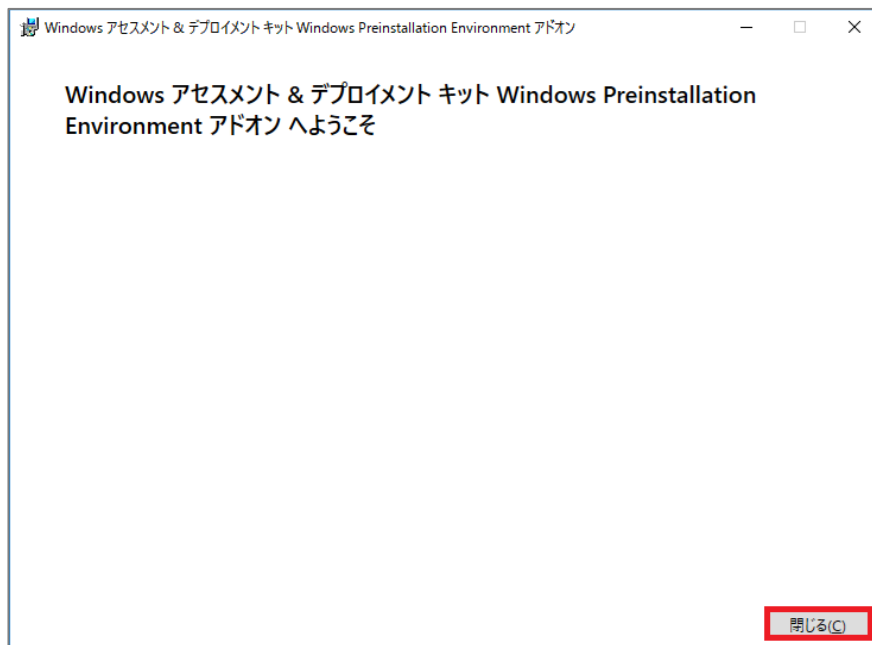
⑤ [インストールを行う機能を選択してください]

「Windows Preinstallation Environment (Windows PE)」を選択し、**[インストール]** をクリックします。



⑥ [Welcome to the Windows アセスメント & デプロイメントキット Windows Preinstallation Environment アドオン へようこそ]

インストール完了後、**[閉じる]** をクリックします。



以上で、Windows PE アドオンのインストールは完了です。

(5) [ブートキット方式の選択]

[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] または [ブート可能 BMR USB メモリ] を選択し、**[次へ]** をクリックします。(このガイドでは、[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] を選択します。)



(6) [デスティネーションの選択]

[デスティネーションの指定] で、BMR ISO イメージの保存先、及びファイル名を指定し、**[次へ]** をクリックします。Windows Server 2025 の復旧メディアは、x64 (64bit OS 用) プラットフォーム専用となります。

※ Windows 10 ベースの復旧メディアを作成する場合は、x86 (32bit OS 用)もメディアに 組み込むことができます。



(7) [言語の選択]

デフォルトでは、[日本語] のみが選択されます。このガイドでは、そのまま **[次へ]** をクリックします。

ベア メタル復旧用のブート キットの作成

言語の選択

以下の言語をこの BMR イメージに統合できます。統合した場合、BMR プロセスで GUI およびキーボードに対して 1 つ以上の言語を選択できます。

注: 各言語の統合には時間がかかります。このプロセスにかかる時間を最小限に抑えるには、必要とする言語のみを選択してください。

言語を選択してください:

- ☐ 英語
- ☐ 中国語 (簡体字)
- ☐ 中国語 (繁体字)
- ☐ フランス語
- ☐ ドイツ語
- ☐ イタリア語
- ☒ 日本語
- ☐ ポルトガル語 (ブラジル)
- ☐ スペイン語
- ☐ 韓国語

☐ すべて選択

Arcserve UDP
バージョン: 11.0
ビルド 11.0.6500.597

戻る(B) 次へ(N) キャンセル(C) ヘルプ(H)

(8) [ドライバの指定]

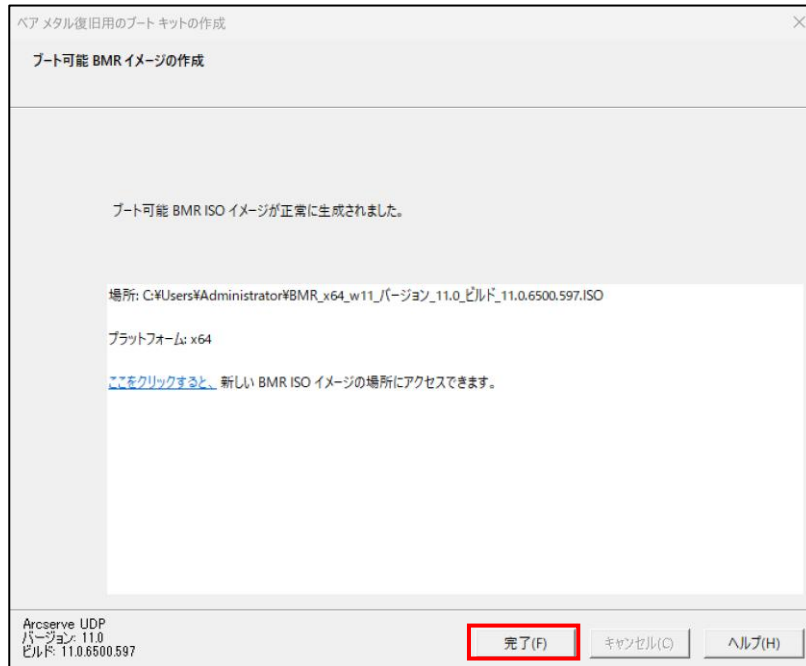
このガイドではドライバを組み込まず、復旧メディアを作成するため **[作成]** をクリックします。

バックアップデータがローカルディスクに保存されていて、ブートキットウィザードを起動している環境からドライバを組み込む場合は、[ローカルドライバを含む] をクリックします。共有フォルダにバックアップしている場合や、任意のドライバを組み込む場合は [ドライバの追加] をクリックします。ここでドライバを追加しなくても、復旧操作中にドライバを組み込むこともできます。

[illegible]

(9) [ブート可能 BMR イメージの作成]

復旧用メディアの ISO イメージの作成完了を確認し、**[完了]** をクリックします。



(10) [BMR ISO イメージから復旧メディアを作成]

物理サーバのベアメタル復旧などには復旧メディアの作成が必要です。Windows OS のライティング機能や ISO に対応したライティング ソフトウェアなどを使い、BMR ISO イメージをブート可能メディアとして作成しておきます。



※ 作成した復旧メディアには、Arcserve UDP のビルド番号を記載し、大切に保管してください

5.2 ベアメタル復旧の実行

UDP のブートキット作成ウィザードを使って作成した復旧メディアを復旧対象のサーバにセットし、復旧用メディアから起動します。

※事前に 復旧用メディアから起動できるようにシステムの設定を行ってください。

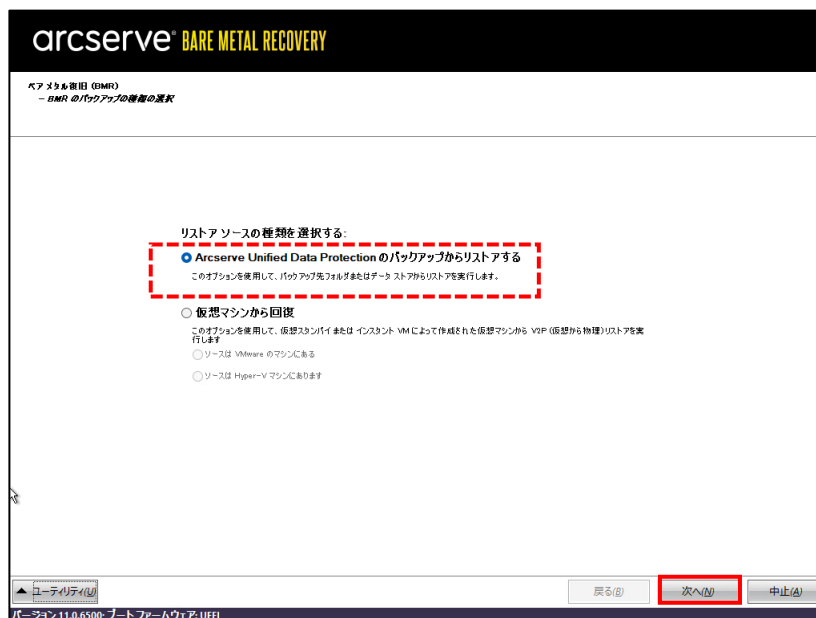
(1) [キーボード レイアウト]の選択

操作画面の表示言語として **【日本語】** を選択し、キーボード レイアウトも自動的に日本語に変更されたことを確認し、**【Next】** をクリックします。



(2) [ベア メタル復旧 (BMR) – BMR のバックアップの種類を選択]

【Arcserve Unified Data Protection のバックアップからリストアする】 が選択されていることを確認し、**【次へ】** をクリックします。



(3) [復旧ポイントを選択します]

重要！バックアップデータの保存場所によって以降の操作手順が異なります

バックアップデータがローカル ディスクに保存されている環境の場合：

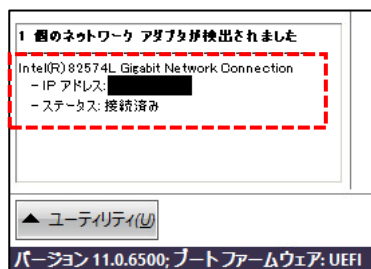
バックアップデータが自動検出されるため、以降の (4) から (7) の操作は不要となります。

適切なバックアップデータを選択の上、手順(8)に進みます。



バックアップデータが共有フォルダや、UDP の復旧ポイントサーバに保存されている場合：

DHCP サーバから IP アドレスを取得しアクセスする場合は、以降の (4) から (7) の操作は不要です。取得した IP アドレスは画面左下に表示されます。適切なバックアップ データを選択するため、(8) 手順に進みます。

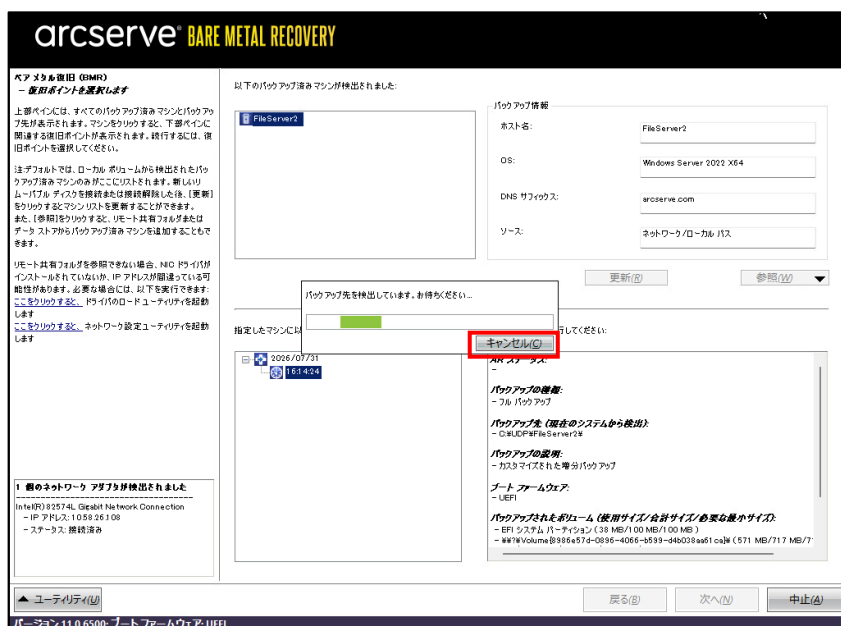


IP アドレスを指定してアクセスする場合は、このまま次の手順に進みます。



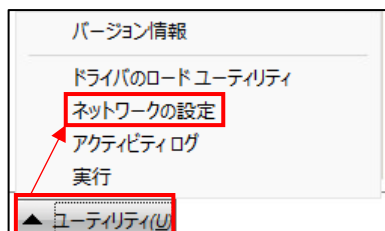
(4) [ベア メタル復旧 (BMR) – バックアップ先の検出]

リモート NAS の共有フォルダまたは復旧ポイント サーバのバックアップ先を参照するため、先にネットワークの設定を行います。バックアップ先の検出が終了しない場合、**[キャンセル]** をクリックして中止します。



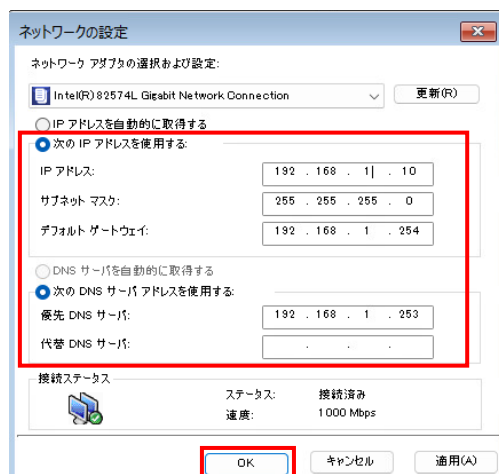
(5) [ベア メタル復旧 (BMR) – ネットワーク設定]

画面左下の [ユーティリティ] メニューから、**[ネットワークの設定]** をクリックします。



(6) [ネットワークの設定]

ネットワークの設定を行い、**[OK]** をクリックします。必要に応じて、デフォルト ゲートウェイや DNS サーバの設定も行います。



(7) [ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧ポイントを選択します]

共有フォルダ(手順 A)と復旧ポイントサーバ(手順 B)では復旧ポイントへのアクセス手順が異なります。

手順 A : 共有フォルダのバックアップデータからベアメタル復旧する方法

- ① 共有フォルダのバックアップイメージからベアメタル復旧を行うには、[参照] - [ネットワーク/ローカルパスから参照] をクリックします。

バックアップ情報

ホスト名:

OS:

DNS サフィックス:

ソース:

更新(R) 参照(W) ▼

ネットワーク/ローカル パスから参照

復旧ポイントサーバから参照

つ選択した後、続行してください:

② [フォルダの選択]

バックアップ先の共有フォルダが存在するサーバ名を[探す場所] に入力し、➡アイコンをクリックします。

フォルダの選択

探す場所: X:\192.168.0.5 ➡

(ローカル ドライブを選択するか、リモート共有パスをここに入力してください。)

名前	サイズ	更新日時
CADEMDrivers		2025/12/17 5:41:29
Program Files		2019/12/07 6:54:46
Program Files (x86)		2019/12/07 6:54:46
ProgramData		2019/12/07 6:54:46
Users		2019/12/07 6:47:23
Windows		2019/12/07 6:47:23

フォルダパス: X* OK キャンセル

③ [Windows セキュリティ]

NAS・ファイルサーバに接続するためのアカウント情報を入力し[OK]をクリックします。

Windows セキュリティ

次の接続先に使用するユーザー名およびパスワードを入力してください:

ユーザー名: administrator

パスワード: ●●●●●●●●●●●●●●●●

ユーザー名の形式: <マシン名またはドメイン名> \ <ユーザー名>

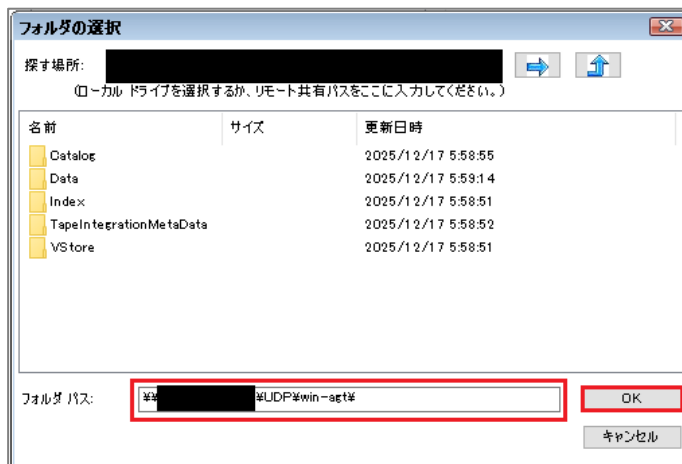
OK キャンセル

④ [フォルダの選択]

アクセス先の共有フォルダと、その共有フォルダ内に作成されている復旧対象サーバ名のフォルダを選択



し、フォルダパスを確認し **[OK]** をクリックします。



- ⑤ [ベア メタル復旧 (BMR)] - 復旧ポイントを選択し **[次へ]** をクリックします。



手順 B : 復旧ポイントサーバのバックアップデータからヘアメタル復旧する方法

復旧ポイントサーバの構築手順については、別ドキュメント「Arcserve Unified Data Protection 11 環境構築ガイド - コンソール + 復旧ポイントサーバ - (フル コンポーネント) インストール 編」をご確認ください。

① [バックアップ情報]

ネットワークの設定後、[参照] - [復旧ポイントサーバから参照]をクリックします。

② [ノードの選択]

復旧ポイントサーバの名前解決ができない場合は、ホスト名に IP アドレスを入力します。ユーザ名とパスワードを入力後、[接続]をクリックしデータストア接続します。接続したデータストアを展開し対象ノードのホスト名を選択し[OK]をクリックします。



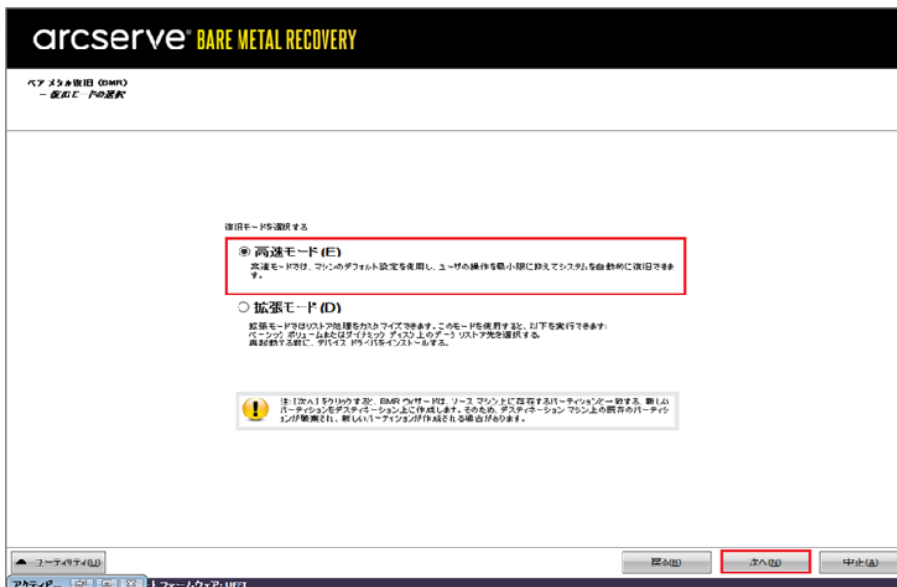
③ [復旧ポイントの確認]

ソースが復旧ポイントサーバとなり、復旧ポイントを確認したら **[次へ]** をクリックします。

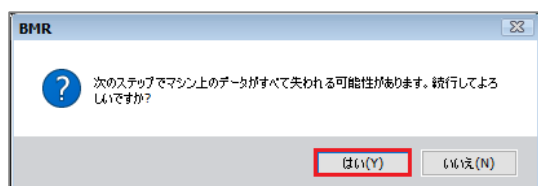


(8) [ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧モードの選択]

復旧モードを選択し、**[次へ]** をクリックします。本ガイドではバックアップ時と同一のボリューム数とパーティションサイズで復旧させるため **[高速モード]** を選択しています。復旧先サーバのボリューム数やディスクサイズを変更し復旧する場合は **[拡張モード]** を選択し、リストア先のボリュームやサイズを手動で変更します。



[はい] をクリックすると、高速モードの場合はバックアップ時点の情報を基に、拡張モードの場合は手動設定した構成とサイズで、環境内のパーティションを再作成します。もう一度パーティションと割り当て設定を確認する場合は [いいえ] をクリックして設定を再度確認することが出来ます。



(9) [リストア設定のサマリ]

復旧対象のソースボリュームと、復旧先のディスク番号を確認し、[OK] をクリックします。

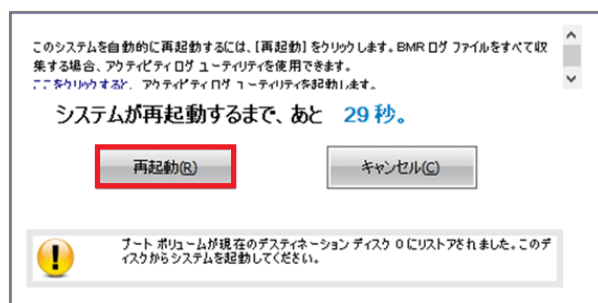


※[リストア設定のサマリ] 画面の下部にある「デスティネーション ボリューム」列に表示されるドライブ文字は、Windows プレイインストール環境 (WinPE) から自動的に生成されているため、「ソース ボリューム」列に表示されるドライブ文字とは異なる場合があります。ドライブ文字が異なっている場合でも、データは問題なく適切なボリュームにリストアされます。

※[OK] をクリックするとベアメタル復旧が始まりますので、設定が適切でない場合には [キャンセル] をクリックし、設定をやり直してください。

(10) [ベア メタル復旧 (BMR) - リストア プロセスの開始]

全ての復旧が完了するとシステムは自動的に再起動されます。再起動後、サーバにログインしシステムが正常に復旧していることを確認します。

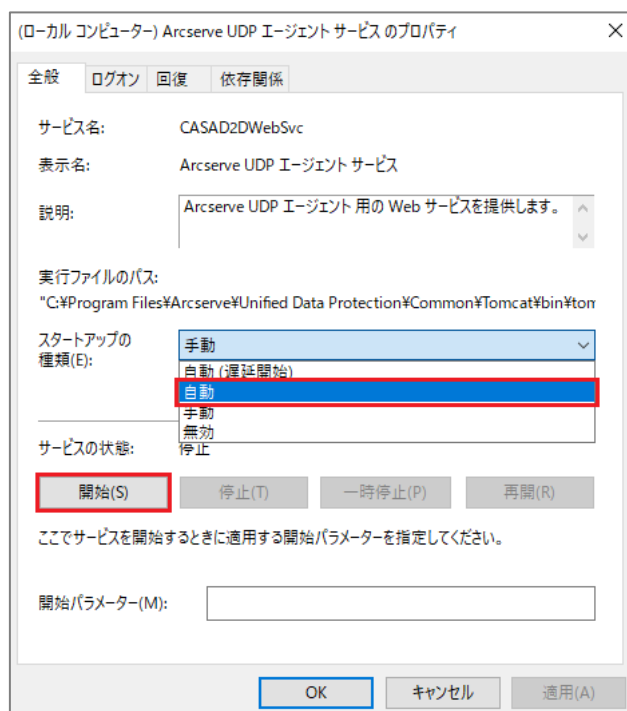


※高速モードでベアメタル復旧が完了した場合、デフォルトでは UDP エージェント サービスは自動起動しません。これは、サーバやアプリケーションの動作確認中に意図しない、スケジュール バックアップが動作することを防ぐためです。

また、ベアメタル復旧後の初回のバックアップは、例え増分バックアップアップがスケジュールされている場合でも、自動的に検証バックアップに変換されます。この検証バックアップにより、取得済みのバックアップ データと元のソースデータとが比較され、正常に継続増分バックアップができるように確認/調整が行われます。検証バックアップは、サイズとしては増分バックアップ相当になる場合が多いですが、所要時間としてはフル バックアップと同等か、それ以上かかる場合があります。そのため、検証バックアップを行っても問題がないように週末まで待ってから UDP エージェント サービスを起動するなど、起動するタイミングについては検討が必要です。

サービスを開始するには、Windows OS のサービス設定から「Arcserve UDP エージェントサービス」のプロパティで [スタートアップの種類] の設定を変更し、バックアップ運用を再開してください。

- スタートアップの種類：[手動] → [自動] に変更
- サービスの状態：[開始]をクリック



6. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

6.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<https://www.arcserve.com/ja/>

動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-11-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

注意 / 制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/2026081701?language=ja>

製品ドキュメント

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-11-0-Documentation?language=ja>

サポート / FAQ

<https://support.arcserve.com/s/article/205002865?language=ja>

Arcserve Unified Data Protection ダウンロード情報

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-11-0-Download-Link?language=ja>

6.2 トレーニング情報

無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。

また、同内容を動画としてアーカイブしたオンラインでのトレーニングも用意しております。

どなた様でも参加/ご視聴いただけますので、この機会にご活用ください。

(注：競業他社の方はお断りしております。)

<https://www.arcserve.com/ja/seminars-events>

※「フィルタリング」で「H-ハンズオン」を選択することで絞り込めます。

